

川越市文化財保護年報

令和4年度

川越市教育委員会
文化財保護課

序

文化財とは、「我が国の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられた貴重な財産」です。そして、それぞれの土地における歴史・伝統・文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化を創り出す礎となる貴重なものでもあります。

川越市内には、長い歴史の中で生み出されてきた数多くの文化財が所在しています。その内容は多種多様に及び、文化財保護法に定義された、有形文化財・民俗文化財・記念物・伝統的建造物群及び埋蔵文化財も多く存在しています。

また、市内には歴史上・芸術上・学術上において価値の高い文化財が、その指定の有無にかかわらず存在しています。私たちの生活や世相に移り変わりがあっても、文化財の価値・重要さは不変です。これらの貴重な文化財を後世に引き継いでいくために、川越市教育委員会では文化財の保存と活用を推進し、各種の事業に取り組んでいます。

このたび刊行する「川越市文化財保護年報」では、令和4年度に川越市教育委員会が文化財に関しておこなった事業について、写真や図を用いてわかりやすく紹介しています。

平成31年の文化財保護法の改正により、「文化財保存活用地域計画」の策定が法制化され、全国の自治体で検討がなされています。当課でも「川越市文化財保存活用地域計画」の策定を目指し、川越市文化財保存活用地域計画策定協議会や川越市文化財保護審議会などを経て、令和5年12月に、本計画は文化庁から認定されました。本計画は、これからの当市の文化財のあり方を示すとともに、市民のみなさんの協力を得ながら、「地域」全体で、文化財の大切さを理解し、情報を共有し、文化財の未来を築き上げていきたいと考えております。

この年報を多くの皆様にご活用いただき、文化財保護意識の高揚の一助になれば幸いです。

令和5年12月

川越市教育委員会 教育総務部 文化財保護課

目 次

1	文化財保護課の目標と決算	1
1-1	目標.....	1
1-2	令和4年度決算及び前年度比較.....	1
2	教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務	1
3	附属機関等	2
3-1	川越市文化財保護審議会.....	2
3-2	川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会.....	2
3-3	川越市河越館跡整備検討委員会.....	3
3-4	川越市山王塚古墳調査検討委員会.....	4
3-5	川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会.....	4
3-6	川越市文化財保存活用地域計画策定協議会.....	5
4	指定文化財	6
4-1	新指定文化財 国指定史跡 山王塚古墳.....	6
4-2	指定文化財の員数変更.....	7
5	河越館跡史跡整備事業	8
5-1	史跡の概要.....	8
5-2	保存整備の経過.....	8
5-3	河越館跡活用事業.....	9
(1)	河越流鏝馬.....	9
(2)	行為許可.....	10
(3)	西文化会館展示コーナー.....	10
6	初雁公園整備事業	11
6-1	史跡の概要.....	11
6-2	整備の経過.....	11
6-3	初雁公園.....	11
6-4	初雁公園整備事業.....	12
7	川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業	13
7-1	川越氷川祭の山車行事.....	13
(1)	概要.....	13
(2)	行事開催日.....	13
8	令和3年度補正予算事業文化芸術振興費補助金	14
8-1	国指定重要無形民俗文化財対象事業.....	14

(1) 喜多町 四方幕の復元新調	14
(2) 幸町 人形頭手足新調	15
(3) 末広町 車輪修理	15
(4) 仲町 車輪新調	16
(5) 元町1丁目 四方幕・人形ボディ新調	16
(6) 連雀町 提灯掛新調	17
8-2 地方指定・未指定文化財を対象とした事業（国指定以外）	17
9 指定文化財の管理	19
9-1 指定文化財保存事業（補助事業）	19
(1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検	19
(2) 史跡・天然記念物の保存	19
(3) 有形文化財の修理	19
(4) 民俗文化財の修理	19
9-2 文化財保存団体への助成と活動状況	19
(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業	19
(2) 文化財関係団体への助成	19
9-3 主な保存事業	20
(1) 木造天海僧正坐像保存修理事業	20
(2) 川越氷川祭山車（六軒町）保存修理事業	21
(3) 石田の獅子舞軍配復元新調事業	22
(4) 環境整備等事業	23
(5) 防災設備改修事業	23
(6) 文化財保存事業（緊急）	23
10 文化財調査	24
10-1 古文書調査	24
10-2 山車調査	24
10-3 『川越市の文化財』改訂に係る調査	24
10-4 指定文化財原田家住宅構造性能調査	25
11 川越市文化財保存活用地域計画の策定	26
11-1 文化財保存活用地域計画とは	26
11-2 川越市文化財保存活用地域計画庁内検討委員会	26
11-3 文化庁協議	26
11-4 文化財保存活用地域計画にともなう調査	26
11-5 文化財保存活用地域計画にともなう講座	27
12 文化財の活用	28
12-1 資料の貸出	28
(1) 常設展等に貸与した資料	28
(2) 特別展・企画展に貸与した資料	28

12 - 2	市指定文化財の活用状況	28
(1)	時の鐘	28
(2)	永島家住宅（旧武家屋敷）	29
(3)	川越城中ノ門堀跡	29
12 - 3	他部局所管の文化財施設の状況	30
(1)	川越城本丸御殿〔博物館〕	30
(2)	川越市蔵造り資料館〔博物館〕	30
(3)	旧川越織物市場、旧栄養食配給所〔都市景観課〕	31
(4)	川越市旧山崎家別邸、川越市旧山崎氏別邸庭園〔観光課〕	31
(5)	川越市産業観光館〔産業振興課〕	32
12 - 4	文化財の公開	32
(1)	博物館等での公開	32
(2)	川越まつり会館での山車展示	32
13	埋蔵文化財	33
13 - 1	埋蔵文化財調査一覧	33
(1)	発掘調査件数の推移	33
(2)	発掘調査一覧	33
(3)	試掘調査一覧	34
13 - 2	試掘調査	36
13 - 3	教育委員会の発掘調査	54
(1)	川越城跡第 43 次調査	54
(2)	川越城跡第 44 次調査	55
(3)	川越城跡第 46 次調査	56
(4)	弁天南遺跡第 17 次調査	58
(5)	山王脇遺跡第 15 次調査	60
(6)	山王久保遺跡第 8 次調査	62
(7)	東下川原遺跡第 5 次調査	64
13 - 4	遺跡調査会の発掘調査	65
(1)	藤原町遺跡第 3 次調査	65
(2)	川越城跡第 45 次調査	67
(3)	走下り西遺跡第 2 次調査	68
(4)	日枝神社遺跡第 5 次調査	69
(5)	弁天西遺跡第 21 次調査	71
(6)	山王脇遺跡第 14 次調査	73
14	伝統的建造物群保存地区保存整備事業	75
14 - 1	伝統的建造物群保存地区制度	75
14 - 2	地区概要	75
14 - 3	地区の特性	76
14 - 4	令和 4 年度の主な事業の概要	76
14 - 5	現状変更行為件数	76

14 - 6	保存事業	77
(1)	保存事業補助金交付額	77
(2)	保存事業の内容	77
14 - 7	保存活動事業	78
14 - 8	伝統的建造物の特定状況	78
14 - 9	防火訓練支援	79
15	普及・啓発事業	80
15 - 1	職員の派遣	80
15 - 2	刊行物	81
15 - 3	防火訓練	82
15 - 4	市制施行 100 周年記念事業「指定文化財修理記念展示」	83
15 - 5	市制施行 100 周年記念事業「土器にさわって学ぼう高階の縄文時代」	84
15 - 6	山王塚古墳ミニ見学会	85
16	川越市の文化財数	86

1 文化財保護課の目標と決算

1-1 目標

川越市は、埼玉県を代表する文化財の街である。これは、各地域の人々が伝承されてきた歴史的建造物や伝統芸能などを大切に守り、伝えてきた結果であり、今後もこれらの貴重な文化財を将来の世代に引き継いでいかなければならない。

このため、つぎのような目標のもとで、文化財の保存と活用を推進していく。

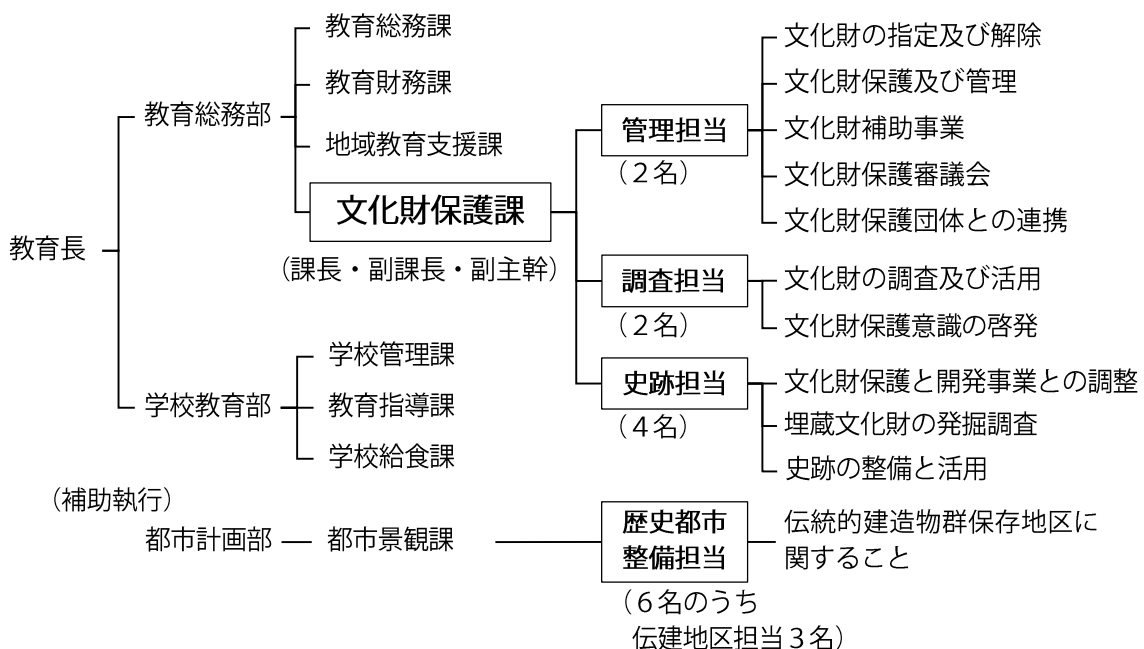
- ・ 文化財の諸調査を実施し、理解を深めるとともに、その保存と活用を図る。
- ・ 指定文化財の維持、管理の充実とその活用を図る。
- ・ 河越館跡整備及び活用の推進を図る。
- ・ 文化財保護意識の啓発に努める。
- ・ 文化財保護団体等との連携を図り、保護活動の推進に努める。

1-2 令和4年度決算及び前年度比較

区 分	令和3年度	令和4年度	比較増減額	増減率	
一般会計	125,913,436,920	121,631,298,226	△ 4,282,138,694	96.6%	
教育費	12,576,462,500	13,482,745,850	906,283,350	107.2%	
文化財保護費	98,349,569	59,424,880	△ 38,924,689	60.4%	
事業別	文化財の維持・管理	15,325,730	11,704,073	△ 3,621,657	76.4%
	文化財の活用	18,850,900	34,555,687	15,704,787	183.3%
	河越館跡整備	64,172,939	13,165,120	△ 51,007,819	20.5%

2 教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務

4月1日時点



3 附属機関等

文化財保護課では、文化財保護審議会をはじめ、個々の文化財について検討する委員会を5つ設置している。また、都市景観課では、伝統的建造物群保存地区保存審議会1つを設置している。

3-1 川越市文化財保護審議会

川越市文化財保護審議会は、川越市文化財保護条例第4条に基づき設置されており、令和4年度は11名の委員を委嘱している。委員の役割分担は、考古・歴史・民俗・建築・植物・文学などにわかれ、指定文化財に関する調査と、指定文化財の維持・管理についての助言等を行う。

委員名簿（任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	山野清二郎	委員	馬場弘
副会長	松尾鉄城	〃	林宏一
委員	大久根茂	〃	牧野彰吾
〃	小久保徹	〃	水上嘉代子
〃	佐藤啓子	〃	水口由紀子
〃	羽生修二		

開催状況

第1回	期日	令和4年7月29日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none">市指定文化財の員数変更について市制100周年記念事業 指定文化財修理記念特別展示について「川越市の文化財」改訂進捗状況について 等
第2回	期日	令和5年2月3日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	11名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none">市指定文化財の員数変更について全史協川越大会について山王塚古墳の国指定について 等

3-2 川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会

川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会は、川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会条例に基づき、川越氷川祭の山車行事に係る山車等の修理等に関して検討を行うため設置されている。令和4年度は、委員として民俗、建築、人形、繊維・染織を専門とする学識経験者と保護団体代表の5名を委嘱している。

委員名簿（任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	大久根 茂	委員	小澤 雄樹
副委員長	是澤 博昭	〃	馬場 弘
委員	水上 嘉代子		

開催状況

	期日	令和4年9月
	場所	書面による報告を実施
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度山車修理事業の完了について 令和4年度山車修理事業について
第1回	期日	令和4年12月7日（水）
	場所	川越市南公民館 講座室3号
	出席者	5名（WEB参加1名を含む）
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度山車修理事業の進捗について 令和5年度並びに6年度以降の山車修理事業について 祭礼後に寄せられた破損・不具合の報告について 既に修理希望が出ている山車に関する相談について

3-3 川越市河越館跡整備検討委員会

河越館跡整備検討委員会は、川越市河越館跡整備検討委員会条例に基づき河越館跡の整備に関して検討を行うため設置されている。令和4年度は中世史、考古学、造園学、景観工学等を専門とする9名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 令和4年11月1日～令和6年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	浅野 晴樹	委員	小久保 徹
副委員長	田中 信	〃	齋藤 慎一
委員	内田 祥士	〃	鈴木 誠
〃	落合 義明	〃	橋口 定志
〃	小野 正敏		

開催状況

意見聴取	期日	令和5年1月12日（木）
	場所	福田ビル3階 会議室
	出席者	4名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 史跡買上げ事業と活用事業について 史跡保存活用計画策定のスケジュールについて 史跡保存活用計画の素案について

3-4 川越市山王塚古墳調査検討委員会

川越市山王塚古墳調査検討委員会は、川越市山王塚古墳調査検討委員会条例に基づき、山王塚古墳の調査及び研究に関して考古学・古代史などを専門とする学識経験者により検討するため設置された。令和4年度は考古学、古代史を専門とする5名の委員によって検討を行った。

委員名簿（任期 令和4年11月1日～令和6年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	広瀬和雄	委員	宮瀧交二
副委員長	須田勉	〃	小久保徹
委員	池上悟		

開催状況

第1回	期日	令和4年5月23日(月)
	場所	福田ビル3階 会議室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 意見具申について 今後の保存活用に関する方向性とスケジュールについて

3-5 川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会

川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会は、川越市伝統的建造物群保存地区保存条例第10条に基づき設置されており、市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区の保存等に関する重要事項について調査及び審議をし、並びにこれらの事項について市長及び教育委員会に建議することを目的としている。令和4年度は12名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 令和4年8月30日～令和6年8月29日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	福川裕一	委員	村田章人
副会長	隈倉雄二郎	〃	長島貴子
委員	溝尾良隆	〃	石村晃龍
〃	田口陽子	〃	山川直美
〃	佐藤由美子	〃	原知之
〃	中山昌克	〃	竹澤穰治

開催状況

第1回	期日	令和4年11月2日(水)
	場所	川越市やまぶき会館 B会議室
	出席者	7名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 伝建地区保存整備事務について 令和3年度国庫補助事業について 令和4年度国庫補助事業について

3-6 川越市文化財保存活用地域計画策定協議会

川越市文化財保存活用地域計画策定協議会は、川越市文化財保存活用地域計画策定協議会運営要綱に基づき、文化財保護法第百八十三条の九第一項で規定されている文化財保存活用地域計画の作成のため、その意見を聴取する場として設けられている。令和3年度から協議会を新たに立ち上げた。委員として文化財所有者、学識経験者、観光団体の代表者、埼玉県、川越市の合計12名を委嘱している。

委員名簿（任期 令和3年6月30日～令和6年6月29日）

職名	氏名	職名	氏名
座長	落合 義明	委員	根岸 督好
副座長	栗原 健一	〃	栗岡 眞理子
委員	原 知之	〃	土屋 正裕
〃	中村 大介	〃	田中 勝宏
〃	大久根 茂	〃	福釜 周二
〃	守山 登	〃	齊木 隆

開催状況

第1回	期日	令和4年7月11日（月）
	場所	教育委員会室
	出席者	8名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 文化庁との協議結果について 川越市文化財保存活用地域計画の課題—方針—措置表について 等
第2回	期日	令和4年11月7日（月）
	場所	教育委員会室
	出席者	12名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 文化庁との協議結果について 川越市文化財保存活用地域計画について 等
第3回	期日	令和5年2月13日（月）
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 文化庁との協議結果について 川越市文化財保存活用地域計画について 川越市文化財シンポジウムについて 等



川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会
（令和4年12月7日）

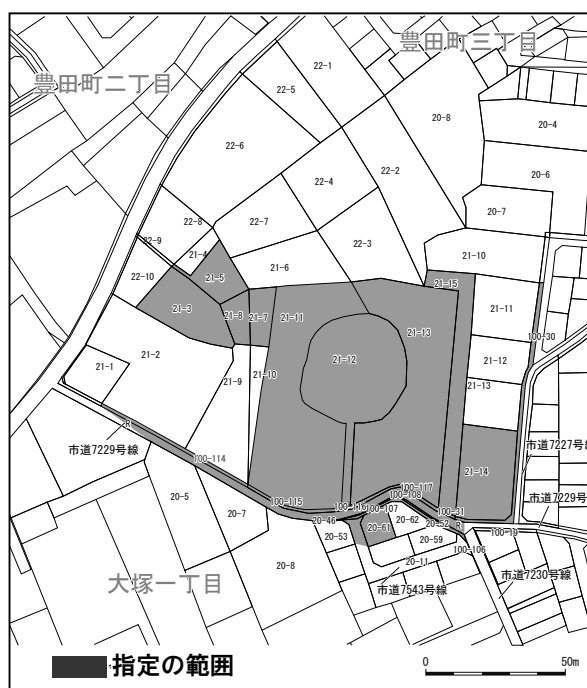


川越市文化財保存活用地域計画策定協議会
（令和4年11月7日）

4 指定文化財

4-1 新指定文化財 国指定史跡 山王塚古墳

1. 名称	山王塚古墳（さんのうづかこふん）
2. 種別	記念物 史跡
3. 所在地	豊田町三丁目、大塚一丁目
4. 所有者	川越市ほか
5. 指定面積	8,409.43㎡
6. 指定年月日	令和5年3月20日



山王塚古墳は7世紀第3四半期に築造された日本最大の上円下方墳である。発掘調査で墳形が確認された事例としては6例目となる。ただし、山王塚古墳の史跡としての価値は、単に珍しい墳形というだけではなく、その属性から、被葬者の広域的なつながりや東国における立ち位置など様々な情報が読み取れ、日本古代史を考えるうえでの示唆に富んでいる点にある。

山王塚古墳は武蔵野台地北端部、川越台の西側縁辺に立地する。上円部の直径37m、下方部一辺69m、墳丘盛土の高さ5m、周溝を含めた規模は一辺約90mである。古墳は旧地表面を整地した後に、上円部、下方部・周溝の順で成形されている。また、墳丘は関東ロームを叩き締めて構築されていた。埋葬主体は南に開口する奥行き9mの3室構造の横穴式石室にハの字状に開く長さ6mの前庭部が伴うもので、良質な関東ロームを版築工法で叩き締めて構築した高さ1.8mの基壇状の盛土上に構築されている。

山王塚古墳に見る広域なつながりの要素として、まず挙げられるのは、版築工法である。これは畿内の終末期古墳の墳丘構築法そのものが導入されていると考えられる。また、古代中国思想の「天円地方の観念」の応用である上円下方墳が近畿以東に広域に分布する事実は、広域の首長同士の関係を表すものである。そして、版築により基壇を作り、その上に石室を組み上げている様子は、韓半島南部の古代寺院建築工法の適用と考えられる。

一方で、墳丘の小型化が著しい終末期古墳にあって、山王塚古墳では大きさに強い拘りが見て

取れる点は東国的な在り方を示している（終末期古墳における最大の方墳〔龍角寺岩屋古墳：千葉〕、円墳〔壬生車塚古墳：栃木〕はいずれも東国にある）。また埋葬主体部は、ハの字状に開く前庭部と門柱石を持った胴張複室構造の横穴式石室であり、在地的な様式に復元されることから、在地首長のとしてのアイデンティティを読み取れる。石室使用石材の角閃石安山岩は旧利根川流域から、緑泥片岩は荒川水系の採取可能地から搬入されており、これらは有力首長の勢力範囲を示す。

これらのことから、山王塚古墳は東アジア的要素と東国的な要素が共存する稀有な古墳であり、7世紀日本古代史の解明に貢献しうる貴重な史跡といえる。



山王塚古墳全景

4-2 指定文化財の員数変更

川越市文化財保護条例第5条の規定により、令和5年3月24日付で員数を変更した。

指定番号	指定名称	旧員数	変更後員数
62	川越氷川神社文書及び三芳野神社文書	35通・83冊・4軸	611点
64	喜多町水村家文書	309通・171冊・2鋪	1050点
65	神明町矢沢家文書	75通・27冊	362点
67	上新河岸遠藤家文書	84通・40冊	1430点
68	下新河岸斎藤家文書	66点	2584点
69	上寺山成田家文書	130通・440冊	1216点
70	中院文書	12通・1冊・4軸	65点
104	幸町宮岡家文書	1冊	2459点
105	旧南町保有文書	5通・26冊	146点
107	郭町北野家文書	5通・35冊・2軸	253点
147	下小坂平野家文書	1786点	2193点

5 河越館跡史跡整備事業

5-1 史跡の概要

1. 名 称	河越館跡
2. 種 別	記念物 史跡
3. 所 在 地	大字上戸 192 - 1 他
4. 所 有 者	川越市ほか
5. 指 定 面 積	48,509.18㎡
6. 指 定 年 月 日	昭和 59 年 12 月 6 日 (国指定)

河越館跡は川越市の北西部、入間川西岸に位置し、その規模は現存土塁の外周に検出された堀跡を含めて約 5 万平方メートルである。

河越館跡は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて有力な関東武士であった河越氏の城館の遺跡であり、中世武家政権を支えた在地領主の実態を究明する上においてもきわめて重要な遺跡である。

5-2 保存整備の経過

昭和 7 年度	河越館跡県指定史跡となる
昭和 46 年～ 59 年度	範囲確認調査 (第 1 次～ 9 次)
昭和 59 年度	河越館跡国指定史跡となる
昭和 61 年度	史跡河越館跡保存管理計画策定
昭和 62 年度	史跡河越館跡整備計画基礎調査報告書作成
平成 元 年度	川越市、史跡河越館跡の管理団体として指定を受ける
平成 5 年度	常楽寺離れ建替の現状変更に伴う確認調査
平成 7 年度～令和 3 年度	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査 (第 1 次～ 18 次)
平成 13 年度	史跡河越館跡整備基本計画策定
平成 14 年度	常楽寺本堂建替の現状変更に伴う確認調査
平成 17 年度	国史跡河越館跡整備資料報告書作成
平成 18 年度	河越館跡史跡整備基本設計書策定
平成 19 年度	河越館跡 (第 1 期) 史跡整備実施設計書策定
平成 19 年度～ 21 年度	第 1 期史跡整備工事
平成 21 年度	河越館跡史跡公園開園 (13,266.00㎡)
平成 28 年度	河越館跡用地測量業務委託
平成 30 年度	河越館跡物件調査業務委託
令和元年度	公有化予定地の公有化完了 河越館跡用地測量業務委託
令和 2 年度・3 年度	史跡外に新設道路・ガイダンス施設用地取得

5-3 河越館跡活用事業

(1) 河越流鏝馬

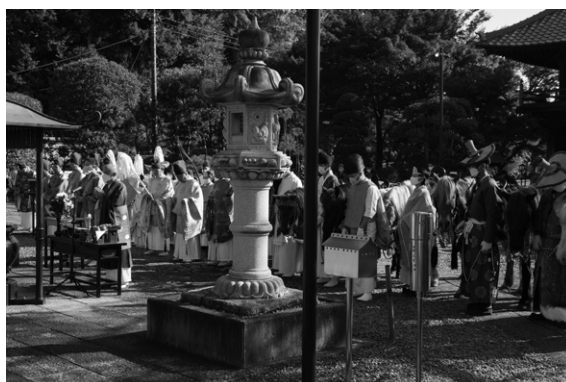
1. 開催日 令和4年11月19日(土)
2. 会場 国指定史跡河越館跡
3. 主催 河越流鏝馬実行委員会・川越市教育委員会
4. 協力 上戸小校区8自治会・上戸自治会・鯨井自治会・上戸芸能保存会・鯨井の万作保存会・(公社)小江戸川越観光協会・川越市文化財保護協会
5. 演武者 倭式騎馬會
6. 見学者数 約3,200人
7. 概要

市内上戸にある国指定史跡河越館跡の活用事業として「河越流鏝馬実行委員会」との共催のもと、河越流鏝馬を実施した。会場となった整備予定地には、南東から北西方向に約190mの直線コースの馬場を設置し、3か所に的を立てた。南東を馬場本、北西を馬場末とし、南東から北西に向かって馬を走らせた。行事の流れとしては、地元保存会による芸能実演後、常楽寺境内で出陣式を行った。その後、流鏝馬会場に移動し、天地人三才之儀、扇舞之儀が行われたのち、5人の狩装束を身にまとった射手が馬を馳せて流鏝馬を行った。

なお、流鏝馬行事では、日本の在来馬が用いられた。



地元保存会による芸能実演



出陣式 常楽寺にて



馬場入場



流鏝馬

(2) 行為許可

河越館跡史跡公園の利用にあたり、グランドゴルフ大会が行為許可の対象となっていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

(3) 西文化会館展示コーナー

平成 21 年 11 月の河越館跡史跡公園開園に合わせ、これまでの発掘調査の成果を公開するための施設として、隣接する川越市立上戸小学校の校舎内に資料展示室を設けたが、令和 2 年度をもって閉室となった。そのため、令和 3 年 4 月 16 日より、西文化会館の図書コーナーの一角を借用し、発掘調査の成果等を展示している。



西文化会館展示状況



ケース内展示状況

6 初雁公園整備事業

6-1 史跡の概要

1. 名称 川越城跡（かわごえじょうあと）
2. 種別 記念物 史跡
3. 所在地 郭町2丁目
4. 所有者 川越市ほか
5. 指定年月日 大正14年3月31日（県指定）
6. 史跡の説明

川越城は、長禄元年（1457）に扇谷上杉持朝の命により、太田道真・道灌父子らによって築造された。戦国時代になると北条氏が武蔵に進出し、天文15年（1546）の河越合戦で北条氏康は扇谷上杉朝定に勝利し、以後川越城は北条氏の支配下となった。豊臣秀吉が北条氏を滅ぼすと、関東は徳川家康の領地となり、川越城は家康の重臣酒井重忠が配置された。特に三代将軍家光の代、城主となった松平信綱は城を拡張し、本丸、二ノ丸、三ノ丸等の各曲輪等、櫓、門等を構えた総面積98,976坪（約326,000㎡）余りの規模を持つ城郭になった。弘化3年（1846）、二ノ丸で火災があり、御殿が焼失したため、城主松平齊典は2年後の嘉永元年（1848）9月に御殿を本丸に再建した。

明治維新を迎えると、川越城は解体が始まり、曲輪等は宅地や学校等に利用されたが、御殿の一部は川越県庁や入間郡公会所といった公共施設に利用され、解体を免れたため、現在も東日本に唯一残る本丸御殿遺構として、また歴史ある川越の表玄関として威風を放っている。

6-2 整備の経過

大正14年		県指定史跡川越城跡となる
昭和46年	3月	初雁公園オープン
平成31年	3月	初雁公園整備基本計画策定
	9月	初雁公園整備事業に伴う確認調査（川越城跡第38次調査）
令和2年	11月	初雁公園整備事業に伴う確認調査（川越城跡第40次調査）
令和3年	5月～12月	初雁公園整備事業に伴う確認調査（川越城跡第41次調査）
令和4年		広場、休憩所新築
〃	12月	初雁公園リニューアルオープン

6-3 初雁公園

初雁公園は、平成31年3月に城址公園化に向けて、基本計画を策定した。公園のテーマを「歴史が人を結ぶ公園」とし、歴史的な価値が高い本丸御殿等の遺構を守り、活用することで歴史を学び、体感する場として整備を進めた。また、市街地のオープンスペースとして、市民の憩いの場となるよう、市制施行100周年に向け、本丸御殿周辺の整備を行った。

6-4 初雁公園整備事業

令和元年度～3年度の整備に先立ち実施した発掘調査の成果を踏まえ、川越市初雁公園本丸御殿周辺整備に係る懇談会の指導を受け、整備を行った。

本丸御殿東側の広場は自然色舗装を施すことで自然な風合いにし、御殿前を囲った諸施設の位置は舗装面に表示を行った。北門、土塁があった場所に合わせ、公園への通路を設け、その脇には土塁の遺構表示を行った。通路の東西に位置する駐車場は堀跡を表現している。また、絵図と発掘調査により位置が特定された拾人部屋については、基礎遺構を保護した上で休憩所として新築した。

令和4年11月30日には開園記念式典が開かれ、テープカットや記念植樹、川越藩火縄銃鉄砲隊保存会による演武が行われた



初雁公園入口（北から）



鉄砲隊による演武



テープカットの様子

7 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業

7-1 川越氷川祭の山車行事

(1) 概要

川越氷川祭の山車行事は、川越氷川神社の例大祭である川越氷川祭に付随して行われる行事である。川越氷川祭は、江戸時代初期に川越藩主松平信綱が、川越氷川神社に祭礼用具を寄進し祭礼の執行を奨励したことがはじまりとされている。

川越氷川神社の氏子のうち旧十ヶ町と呼ばれる各町では、山車などの練り物を出して神輿の神幸に供奉してきた。また、自町内や他の町にも山車を曳き、他町の山車と出あう際には、山車を向けて囃子をたたきあう「曳っかわせ」が行われるなど、祭事に伴う多彩な民俗も受け継いできた。現在では行事の規模、範囲が拡大し、市民まつりとしての側面も担っている。

現在ある山車の形状は、上下可動式の二重鉾で上に人形をいただく江戸型山車であり、天下祭の影響を強く受けている。また、囃子台を自在に向けられるように、せいご台より上が水平に回転する仕組みを持つ山車も多い。

10台の山車が昭和43年に「川越氷川祭山車」として県の有形民俗文化財に指定され、平成17年には行事自体が「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された。そして平成28年には「川越氷川祭の山車行事」を含む全国33件の祭礼行事が一括で「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

行事を継続していくためには様々な問題を抱えているが、中でも近年は道路の舗装化や行事の毎年開催化の影響により、山車の劣化損傷が避けられない状況にある。人形や装飾品についても経年劣化や急な悪天候を原因とした汚損などが起こっている。

このことから、国指定に係る13町が保有する14台の山車と、県指定に係る1町1台の山車について、損傷状況を調査した上で、順次保存修理事業を行っている。

(2) 行事開催日

令和4年度は10月15日午後に氷川神社神幸祭が執行され、これに合わせて山車の供奉が行われた。過去2年は新型コロナウイルス感染症の影響に山車行事は中止であり、3年ぶりの運行となった。なお、令和4年は市制施行100周年でもあり、保存会全13町の山車が勢ぞろいする記念の祭りとなった。



令和4年度の山車行事

8 令和3年度補正予算事業 文化芸術振興費補助金

(地域文化財総合活用推進事業)

当事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の礎である伝統行事や民俗芸能等、行事等の開催が困難となり、その存続が危機的な状況になっていることから、伝承のための支援を行うことにより地方活性化に資することを目的としている。

支援対象は国指定重要無形民俗文化財とその他の地方指定・未指定文化財を対象とする事業である。補助の対象となるのは、用具等整備事業と後継者養成事業である。

8-1 国指定重要無形民俗文化財対象事業

本市では、「川越氷川祭の山車行事保存会」（以下、保存会）が事業の申請者となり、文化庁からの補助金（文化芸術振興費補助金）総額 27,405,000 円を受けて実施した。

	町名	事業内容	事業費総額	補助金額
1	喜多町	四方幕の復元新調	13,024,000	13,024,000
2	幸町	人形頭手足新調	4,895,000	4,236,000
3	末広町	車輪修理	1,777,000	1,777,000
4	仲町	車輪新調	5,916,900	5,511,000
5	元町1丁目	四方幕・人形ボディ新調	2,620,000	2,615,000
6	連雀町	提灯掛新調	242,000	242,000
合計			28,474,900	27,405,000

(1) 喜多町 四方幕の復元新調

秀郷の山車の上段幕について、前・横の3枚を同材・同仕様にて復元新調し、後幕については、生地を準備した。



上段幕正面（復元新調後）



上段幕右面（復元新調後）



上段幕左面（復元新調後）



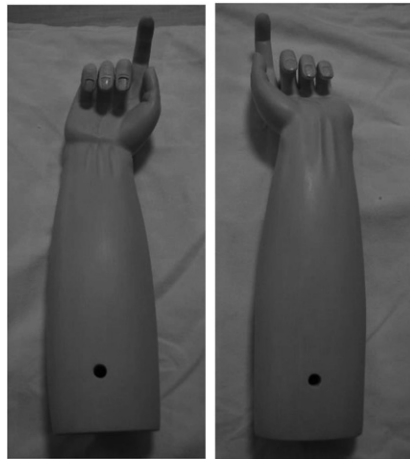
上段幕後面（生地）

（2）幸町 人形頭手足新調

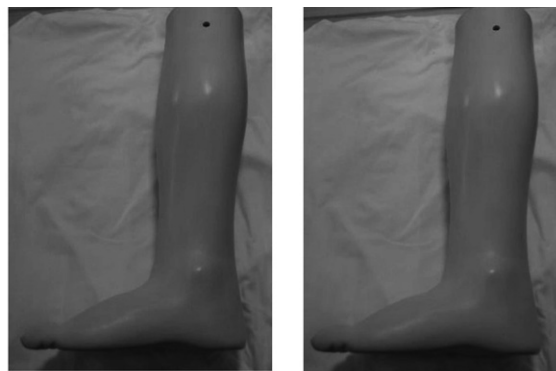
翁の山車の山車人形について、頭、及び手足について、現人形と可能な限り、同材・同仕様に復元新調するもの。



山車人形頭復元新調後



山車人形手復元新調後



山車人形足復元新調後

（3）末広町 車輪修理

高砂の山車について、山車の車輪（4つ）の焼嵌め修理を実施するもの。



山車車輪焼嵌め工事写真



山車車輪焼嵌め後

(4) 仲町 車輪新調

羅陵王の山車の車輪（4つ）を復元新調するもの。



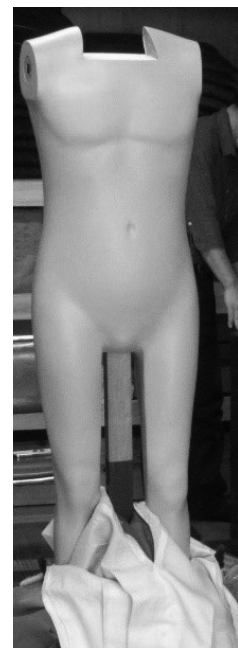
山車車輪復元新調後

(5) 元町1丁目 四方幕・人形ボディ新調

牛若丸の山車の上段幕について、現上段幕と可能な限り、同材同仕様にて復元新調するもの。併せて、山車人形ボディについて、可能な限り、同材同仕様にて復元新調するもの。



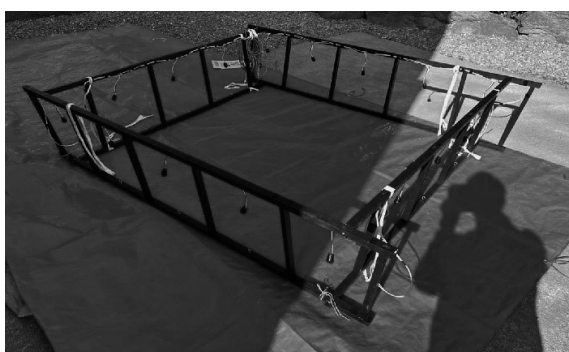
上段幕新調後



山車人形ボディ復元新調後

(6) 連雀町 提灯掛新調

道灌の山車の提灯掛を新調するもの。



提灯掛上段新調後



提灯掛下段新調後

8-2 地方指定・未指定文化財を対象とした事業（国指定以外）

この事業を希望する地方指定文化財保持団体3団体・未指定文化財保持団体12団体の計15団体が「川越市文化遺産活用実行委員会」を組織し、補助事業の申請を行った。当事業により文化庁から交付された補助金の総額は17,691,000円（補助率99.9%）である。

各団体の事業内容は次の表のとおり。

	区分	団体名	内容	総額	補助金額
1	県指定	南大塚餅つき踊り保存会	杵・桶新調	258,500	254,000
2	市指定	福田の獅子舞保存会	獅子頭修理	1,980,000	1,980,000
3		中福の神楽保存会	神楽面修理	993,000	993,000
4	未指定	葵囃子連	舞手衣装・締太鼓新調	633,930	633,000
5		大塚新田囃子連	面・長胴太鼓修理	396,000	1,341,000
			舞手衣装・締太鼓新調	946,330	
6		岸町囃子連	締太鼓修理	427,680	427,000
7		新富町二丁目囃子連	長胴太鼓修理	176,000	1,885,000
			舞手衣装・締太鼓新調	1,709,580	
8		仙波囃子保存会	締太鼓修理	345,000	345,000
9	月鉾囃子連	面修理	330,000	330,000	
10	寺尾囃子連	長胴太鼓修理	344,300	476,000	
		太鼓台新調	132,000		
11	南大塚囃子連	獅子頭修理	611,600	1,887,000	
		舞手衣装・幕・太鼓台新調	1,276,000		
12	旭町祭典委員会	山車人形修理	122,650	122,000	
13	三久保自治会	高張提灯修理	37,400	777,000	
		提灯竿・職方半纏新調	740,300		
14	菅原町川越祭り協賛会	山車人形・山車本体修理	3,084,400	3,084,000	
15	中原町祭礼運営委員会	山車人形・幕・太鼓枠修理	3,056,020	3,157,000	
		高張提灯・提灯竿新調	102,300		
合計				17,702,990	17,691,000



修理した獅子頭（福田の獅子舞保存会）



新調した締太鼓（新富町二丁目囃子連）



修理した山車人形・太鼓杵と新調した高張提灯（中原町祭礼運営委員会）

9 指定文化財の管理

9-1 指定文化財保存事業（補助事業）

令和4年度に補助金を交付した保存事業は以下のとおりである。

(1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検（川越市補助金総交付額 1,417,000円）

①防災設備保守点検（経常）

重要文化財	喜多院客殿ほか・東照宮本殿ほか・日枝神社本殿・大沢家住宅
県指定文化財	三芳野神社社殿ほか・氷川神社ほか・古尾谷八幡神社社殿
市指定文化財	原家住宅・小島家住宅・田中家住宅

②防災設備更新・改良工事（緊急）

重要文化財建造物日枝神社本殿については、防災設備の更新・改良工事を緊急に実施した。

(2) 史跡・天然記念物の保存（川越市補助金総交付額 1,399,000円）

①環境整備（経常）

市指定文化財	牛塚古墳・上戸日枝神社・鯨井のヒイラギ・下小坂の大ケヤキ・古市場のヒイラギ
--------	---------------------------------------

②環境整備（臨時・緊急）

市指定文化財	愛宕神社古墳（臨時）・浅間神社古墳（臨時・土留補修）・出世稲荷神社（臨時・支障枝剪定）
--------	---

(3) 有形文化財の修理（川越市補助金総交付額 477,000円）

重要文化財	喜多院保管庫（経常・燻蒸殺虫）
県指定文化財	木造天海僧正坐像（臨時）
市指定文化財	広済寺金毘羅堂（緊急・白蟻駆除）

(4) 民俗文化財の修理（川越市補助金総交付額 215,000円）

国指定文化財	川越氷川祭の山車行事 山車保存修理（六軒町）（臨時）
市指定文化財	石田の獅子舞軍配復原新調（臨時）

9-2 文化財保存団体への助成と活動状況

(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業（川越市補助金総交付額 791,000円）

埼玉県・川越市指定無形民俗文化財12件について後継者育成・保存事業を実施、各団体に補助金を交付した。補助の対象となった文化財は次のとおりである。

県指定文化財	川越祭りばやし（中台）・老袋の万作・石原の獅子舞・老袋の弓取式
市指定文化財	南田島の足踊り・鯨井の万作・中福の神楽・石田藤宮神社の筒粥神事・芳地戸のふせぎ・川越の木遣り・下小坂の獅子舞・石田の獅子舞

(2) 文化財関係団体への助成（川越市補助金総交付額 285,000円）

文化財の保護・普及を目的に活動している文化財保護団体に対し、団体育成のため、川越氷川祭の山車行事保存会と川越市文化財保護協会に川越市補助金を交付した。

9-3 主な保存事業

(1) 木造天海僧正坐像保存修理事業

事業名称	木造天海僧正坐像保存修理事業
対象文化財	県指定有形文化財（彫刻）木造天海僧正坐像
品質・構造	木造（ヒノキ材・寄木造り）
法量（本体）	像高 121.5 座高 69.5 面長 15.5 最大幅 74.5 最大奥 55.0（単位 cm）
所在地	川越市小仙波町1丁20-1
事業期間	令和3年5月12日～同4年3月31日（令和3年度） 令和4年4月1日～同4年9月30日（令和4年度）

概要

喜多院再興の傑僧慈眼大師天海僧正（1536カ～1643）の肖像で、境内の慈眼堂内に安置されている。白い探題帽で頭をつつみ、法衣に袈裟を着け、右手に払子をもち、左手をこれに添えて椅子上に坐した姿である。像底から出ている角ほぞに墨書銘があり、「寛永廿癸未歳八月吉日、大仏師式部卿」と読める。天海僧正の没年は寛永20年（1643）10月2日であるから、僧正入寂の2ヶ月前に寿像として造立されたことが知られる。面相の表現は、老貌ながらすこぶる生彩があり、俊敏明晰な天海の人となりをうかがわせるものがある。天海遷化の年齢は108歳、125歳など各説あるだけに、この記録は、貴重な資料を提供するものといえよう。

現状

本像は寛永20年（1643）に造立された木造であり、昭和63年以降本格的な修復がされた様子は確認できない。今日まで約380年経過しているため、表面彩色の脆弱化がみられ、また、矧目が遊離し、構造が弱くなっている個所が見受けられ、全体的な損傷個所が目立つような状況である。

椅子は、漆の剥落が目立つ。全体的な構造はしっかりしているが、一部、構造補強を必要とする個所もあり、部分的な構造補強を行う必要がある。大規模な修理が必要になる前に、一刻も早い修理作業を行うことが有効な修理手立てである。

修理内容

今年度は、本像の補彩、矧目の補強作業と、椅子、沓のクリーニング、彩色の剥落止め、補彩等の作業、全体の調整作業を行い、修理事業を完了した。



木造天海僧正坐像（修理後）

(2) 川越氷川祭山車（六軒町）保存修理事業

事業名称 川越氷川祭山車（六軒町）保存修理事業
対象文化財 県指定有形民俗文化財川越氷川祭山車 付 絵馬一面 絵巻一卷
所在地 川越市六軒町
事業期間 令和5年3月1日～同年3月31日

概要

川越氷川祭山車のうち六軒町自治連合会が所有する「三番叟の山車」は、三つ車・二重鉾・唐破風屋根仕上げの囃子台を持つ山車である。山車人形は黒羽二重の上衣に烏帽子をかぶり、手に鈴を持ち、黒式尉の面を着けているなど、能楽「式三番」に登場する三番叟の姿を表している。現在の山車は明治21年に川越の大工、印藤吉五郎が製作し、山車人形は仲秀英により製作された。旧十カ町以外では初めて作られた山車であり、昭和43年3月29日に埼玉県指定有形民俗文化財に指定された。また、国指定重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事を構成する山車の一つでもある。

修理内容

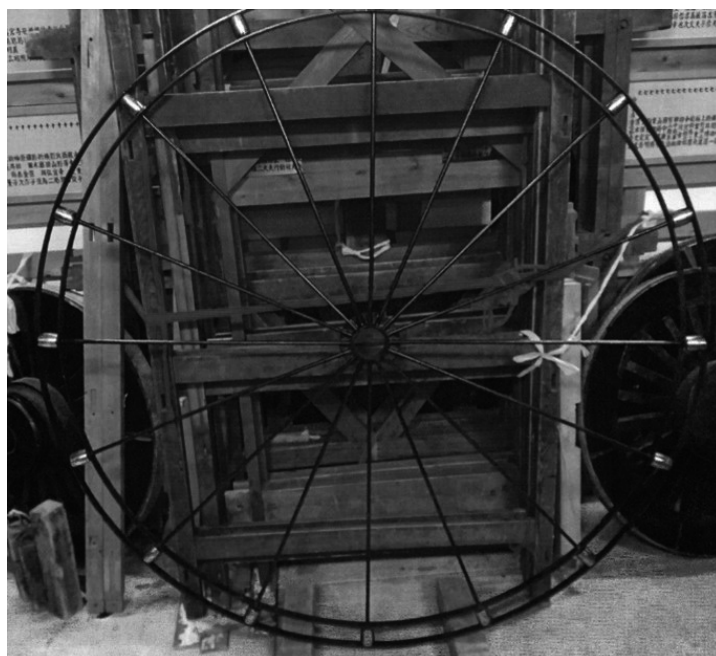
川越まつりにより山車を運行していた最中に、木材が回転台内部に落下した。山車解体後に詳細を確認したところ、回転台内部に設置されている車輪状部品の輻1本が大きく変形していたため、元の形状に復するための緊急修理を行った。



変形した部品



工変形部分の切断



修理後

(3) 石田の獅子舞軍配復元新調事業

事業名称 石田の獅子舞軍配復元新調事業
対象文化財 市指定無形民俗文化財 石田の獅子舞
所在地 川越市石田
事業期間 令和4年4月1日～令和4年11月30日

概要

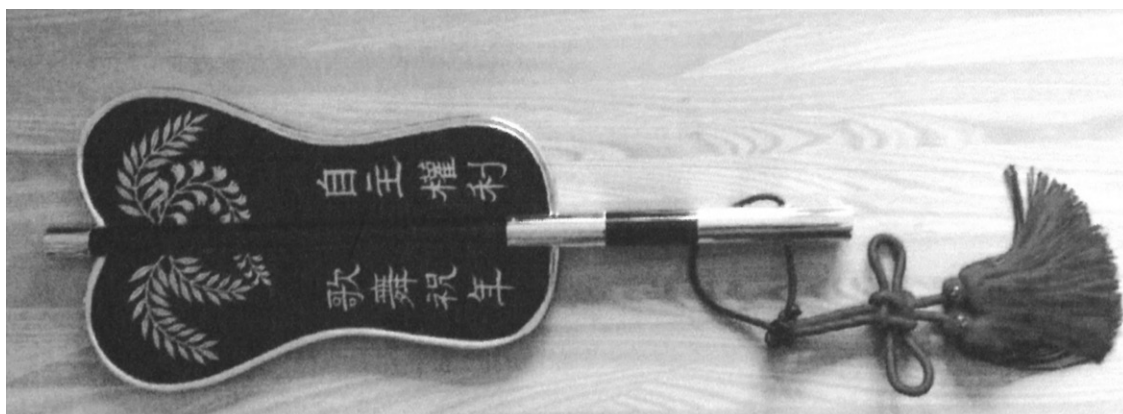
石田の獅子舞は、毎年4月第2日曜日、及び7月14日（天王様）に市内石田地区で行われている一人立ち三頭の獅子舞（三匹獅子舞）である。大獅子・女獅子・小獅子の三頭の獅子のほか、軍配を持った山の神（ハイオイ）1人と花笠4人で構成される。また、ニワ場に入る際は年行司とホラ貝が付く。かつては村回りが行われ、獅子が厄払いのため各家を回っていたが、現在は地区内の藤宮神社境内で披露される。苙の上に麦や米を干すように腰を低くし、荒々しく舞う様子から、ホシモンジシ（干物獅子）の別名がある。

修理内容

山の神が持つ軍配について、中央に深い亀裂が入り、使用し続けると破断する恐れがあったことから復元新調を行った。復元新調にあたり、現状と同型、同素材にて木地を作り、現状同様に黒漆塗装や金文字等の装飾を行った。



破損した軍配



復元新調後

(4) 環境整備等事業

① 市指定文化財浅間神社古墳環境整備事業

事業名称 環境整備事業
所在地 富士見町 21-1
事業期間 令和4年7月19日～令和4年9月28日
概要 植栽管理計画に沿って枯枝木伐採・支障枝剪作業を行っていたが、墳丘部に土の流出がみられたため、今年度は昨年度からの継続事業として、土の流出を防ぎ、既存破損部材を撤去・整地をし、土留めの補修工事等を実施し、今年度で土留め工事は完了した。土留めを新規設置した。

② 市指定文化財愛宕神社古墳樹木整備事業

事業名称 樹木整備作業
所在地 仙波町 4丁目 5-9
事業期間 令和4年12月16日～令和5年3月7日
概要 現在の樹木の状況や剪定の優先順位を調査把握し、史跡内の植栽管理計画を作成した。その計画に沿って継続的に安全対策として実施してきた。今年度は5年計画の3年目に該当し、腐朽危険樹木や幹損傷の激しい危険度の高い樹木の伐採及び枝等の剪定作業を実施した。

③ 市指定文化財出世稲荷神社のイチョウ剪定事業

事業名称 樹木整備作業
所在地 松江町 1丁目 7-1
事業期間 令和5年2月12日～3月1日
概要 樹形を整え、隣地や電線を越境している枝を切詰剪定を実施した。

(5) 防災設備改修事業

① 国指定文化財日枝神社防災設備改良事業

事業名称 防災設備改良事業
所在地 小仙波町 1丁目 4-1
事業期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
概要 防災設備の動力ポンプ等の更新・改良を、国庫補助金及び埼玉県文化財保存事業費補助金も活用し実施した。

(6) 文化財保存事業(緊急)

① 市指定文化財広済寺金毘羅堂白蟻駆除事業

事業名称 白蟻駆除事業
所在地 喜多町 5-1
事業期間 令和5年1月25日～3月13日
概要 金毘羅堂正面(東側)に白蟻被害が確認されたので、薬剤散布による駆除を実施した。また、建物全体の現状把握調査を行い、限られた場所で一時的であることを確認し、健全な状態に戻した。

10 文化財調査

10-1 古文書調査

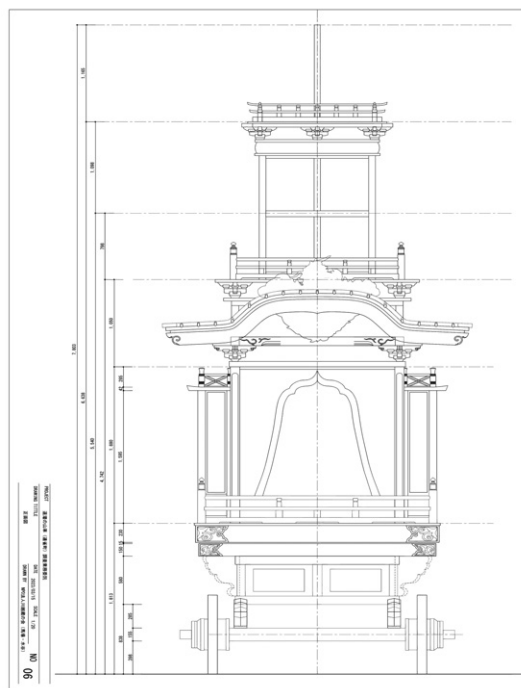
川越の歴史を理解するための基本史料の充実を図るため、市内に残る古文書の悉皆調査を行い、目録刊行のための整理事業を実施している。整理は、古文書1点ずつの表題をとり、中性紙の文書袋に入れる作業である。また、平成29年度から、市指定文化財の現状や保管状況を確認する作業を開始した。令和4年度は、上戸吉田家文書、松江町2丁目原田家文書、大東村関係文書の整理作業を行った。また、指定文化財の確認作業として光西寺松井家文書、大野家文書（石田本郷）、幸町宮岡家文書、神明町小川家文書、川越氷川神社および三芳野神社文書、中院文書、上寺山成田家文書の確認と中性紙の文書袋に入替える作業を行った。

10-2 山車調査

川越市には、国指定重要無形文化財「川越氷川祭の山車行事」で運行される14台の山車をはじめ、祭に使用する山車や屋台が多数ある。本調査では、国指定重要無形民俗文化財「川越氷川祭の山車行事」で使用する「道灌の山車」（連雀町）の、山車に関する歴史・伝承調査（資料による来歴調査と、所有者へのヒアリング調査）と、構造・実測調査（CADによる山車図面作成を含む）を実施した。



調査風景



実測図面

10-3 『川越市の文化財』改訂に係る調査

川越市では、『川越市の文化財』の冊子を昭和47年(1972)に初めて刊行し、指定文化財等の紹介を行ってきたが、平成14年(2002)に第6版の改訂を刊行したのを最後に、改訂版が刊行されていなかった。そのため、改訂事業を市制施行100周年記念事業と位置づけ、あらたに54

件の新指定文化財の説明を追加するとともに、既存解説文の更新と掲載写真の差替えを行った。

また併せて、指定文化財が置かれている環境や保存状態を調査し、状況を記録するカルテを作成する事業を平成29年から5ヶ年計画で開始した。

具体的には、文化財保護審議会の委員を中心に、確認調査・写真撮影・原稿執筆等の作業を行った。

令和4年度に第7版の冊子を出版し、作業を完了した。

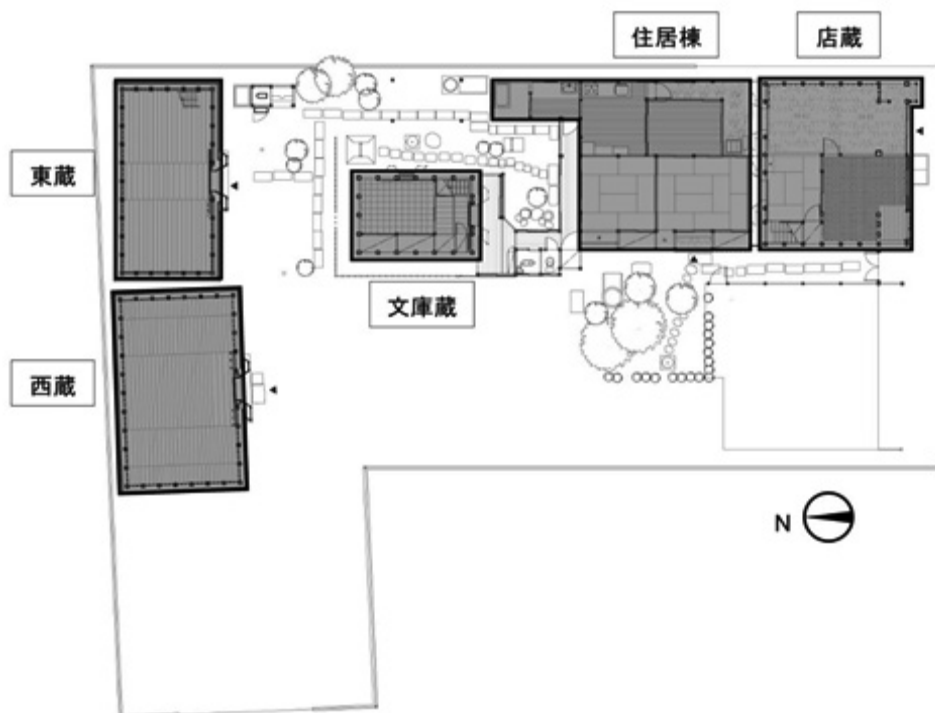


市指定文化財「仲町踊り屋台」の調査状況

10-4 指定文化財原田家住宅構造性能調査

川越市では、令和3年に取得した市指定文化財建造物（店蔵）と市指定史跡に指定されている原田家住宅について、今後の活用を見据えた調査を実施した。

本年の調査では、市指定文化財建造物の店蔵を始め、住居棟・文庫蔵・東蔵・西蔵の5棟を対象に、常時微動測定を実施し、あわせて、原田家住宅5棟の建造物の固有振動特性の評価に必要な構造調査を行った。



調査対象範囲図面

1 1 川越市文化財保存活用地域計画の策定

1 1 - 1 文化財保存活用地域計画とは

平成 31 年施行の改正文化財保護法により、市町村が地域の文化財の保存・活用のために、文化財保存活用地域計画（以下、地域計画）を作成できるようになった。川越市では、令和 2 年から地域計画の策定に向けて準備を始めている。

今年度は、川越市文化財保存活用地域計画策定協議会（以下、協議会）や川越市文化財保存活用地域計画庁内検討委員会（以下、検討委員会）による意見の聴取、文化庁の文化財調査官による文化庁協議、文化庁の補助金を用いた文化財調査、高階地区や小仙波町・西小仙波町のように地域を限定した講座、市外の方も含めた参加者を得て開催したシンポジウムなどの事業を踏まえて、地域計画の作成を行った。

1 1 - 2 川越市文化財保存活用地域計画庁内検討委員会

上記の検討委員会は、昨年度までの本計画に関係すると考えられる 12 課（政策企画課・財政課・地域づくり推進課・文化芸術振興課・産業振興課・観光課・都市計画課・都市景観課・公園整備課・中央公民館・博物館・教育指導課）に加えて、美術館・農政課・中央図書館と当課を加えた合計 16 課による、課長級の検討委員会を開催した。

今年度は、課長級の検討委員会に加え、同じ 16 課の担当者による作業部会を、4 月 26 日、5 月 31 日の 2 回実施し、どのような事業を実施するのかという地域計画の要である、課題一方針一措置表（地域計画 5 章部分）について意見を交わした。

また、検討委員会は 10 月 19 日と令和 5 年 1 月 24 日の 2 回実施し、協議会で意見聴取する内容について検討した。



文化庁協議

1 1 - 3 文化庁協議

川越市文化財保存活用地域計画の各章の素案などについて、文化庁地域文化創生本部と協議を、7 月 28 日、12 月 22 日、令和 5 年 3 月 23 日の 3 回実施した。

1 1 - 4 川越市文化財保存活用地域計画にともなう調査

地域計画の作成に向けて、昨年度に引き続き、文化庁の文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業（文化財保存活用地域計画作成））220 万 8 千円を得て、地域計画策定後を見据えた補助的な文化財調査を実施した。

①民俗調査 昨年度に引き続き、川越民俗の会の会員の協力を得て調査を行った。その結果、霞ヶ関地区（霞ヶ関北地区・川鶴地区も含む）は石造物 106 基（新規 35 基）、山田地区では 82 基（新規 46 基）を調査した。

②歴史史料調査 昨年度に引き続き、旧名細村（1889～1955）の行政文書を対象に調査を行った。地域計画策定協議会の栗原委員（立正大学専任講師）を中心に、立正大学の大学院や学部生の参加を得て実施した。昨年度未整理であった 39 箱分の文書調査を行い、最

最終的に 73 箱・2701 点を整理し、目録を入力する作業まで終了した。また、旧大東村の行政文書について整理し、27 箱・827 点となった。

1 1 - 5 川越市文化財保存活用地域計画にともなう講座

地域計画の趣旨や川越市の歴史遺産の魅力を広く市民に周知するため、以下のような講座を実施した。高階地区と本庁地区内での開催となったが、地域の歴史遺産に対する地域住民の想いを知る講座となった。

①発見！たかしな遺産めぐり 2 講座（於：高階公民館）

日程	時間	内容	人数
1 月 12 日 (木)	13 時半～ 15 時半	新河岸川舟運の座学とフィールドワーク	15
1 月 26 日 (木)	13 時半～ 16 時半	地域計画の座学、たかしな遺産についてワークショップ	12

②地域の遺産めぐり講座（於：西小仙波 1 丁目自治会館）

日程	時間	内容	人数
1 月 28 日 (土)	13 時～ 15 時	喜多院周辺の歴史遺産の座学、話者 4 名による昭和 30 年頃の喜多院周辺について説明	10
2 月 4 日 (木)	13 時～ 15 時半	喜多院周辺のフィールドワーク、残すべき地域の遺産についてワークショップ	9

③川越市文化財シンポジウム「文化財の保存と活用から考える 川越の歴史と未来」

（於：ウエスタ川越多目的ホール）

日程	時間	内容	人数
2 月 23 日 (祝)	14 時～ 16 時半	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画の概要説明 ・講演 1 「江戸時代の SDGs—川越藩領三富新田と庶民の暮らし—」講師：梶 よう子 氏（作家） ・講演 2 「地域の力を歴史にさぐる—中世の河越を例にして—」講師：落合 義明 氏（大東文化大学教授） ・討論 	282



①発見！たかしな遺産めぐり 2 講座
フィールドワーク



③川越市文化財シンポジウム

1 2 文化財の活用

1 2 - 1 資料の貸出

(1) 常設展等に貸与した資料 (3件)

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	4月1日～ 3月31日	入間市博物館	常設展『入間の歴史』に展示	小仙波四丁目遺跡出土遺物5点
2	4月1日～ 3月31日	学校法人ひまわり学園	新園舎内展示ケースに展示	寿町東遺跡出土遺物10点
3	4月1日～ 3月31日	川越市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』他に展示	河越館跡出土遺物他計50点

(2) 特別展・企画展等に貸与した資料 (2件)

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	8月15日～ 11月30日	埼玉県立嵐山史跡の博物館	特別展『武蔵武士と源氏 鎌倉殿誕生の時代』に展示	河越館跡出土遺物20点
2	3月1日～ 5月31日	ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館	企画展「ふじみ野に馬がいた！？～ふじみ野のまぼろしの牧をさぐる～」に展示	弁天西遺跡出土遺物2点

1 2 - 2 市指定文化財の活用状況

(1) 時の鐘

種 別 市指定有形文化財 建造物
所在地 幸町 15-7

時の鐘は、江戸時代初期に川越城主酒井忠勝により現在の場所に創建された。大火による焼失を繰り返し、現在の時の鐘は明治26年(1893)の川越大火の翌年に再建された。現在では小江戸川越のシンボルとなっている。自動打鐘機による1日4回の鐘つき(午前6時、正午、午後3時、午後6時に各6打ずつ)と夜間ライトアップ(午後10時まで)を行っている。



活用の状況

	月日	件名	内容
1	8月6・9日	原爆の日における時の鐘の点鐘	広島市及び長崎市の原爆死没者の冥福と平和を祈念するため、原爆投下の同日同時刻に点鐘した。
2	11月1日～ 15日	現代美術展2022の展示場所提供	川越市内13か所を会場に5～6人の海外作家の現代美術の作品を展示する

現状変更・修理等の状況

なし

(2) 永島家住宅（旧武家屋敷）

種 別 市指定記念物 史跡
所 在 地 三久保町5-3

永島家住宅は、川越城南大手門近くの武家地であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた中級武士の武家屋敷である。平成21年に建物の一部と土地の寄付を受け、平成24年3月から庭園の公開を開始した。平成28年度に残りの建物部分が寄付され、土地・建物の全てが市の所有となった。



庭園公開

一般公開 毎週土曜日（12月29日～1月3日除く）
特別公開 GW 5月3・4・5日（火・水・木）※感染症拡大防止のため公開中止
川越まつり 10月15・16日（土・日）
公開時間 午前9時～午後4時

見学者数

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
公開日数（日）	5	4	4	5	4	4	6	4	4	4	4	4	56
見学人数（人）	171	87	59	41	51	55	595	121	66	97	52	59	1,454

(3) 川越城中ノ門堀跡

種 別 県指定史跡「川越城跡」の一部
所 在 地 郭町1丁目8-6

川越城は長禄元年（1457）、主君扇谷上杉持朝の命を受けた太田道真・道灌父子により築城され、江戸時代まで存続した。中ノ門堀は、江戸時代の慶安3年（1650）頃から承応2年（1653）前後に川越藩主松平信綱が行った城の拡張工事に伴って築造された堀と考えられる。



明治以降に旧城内の宅地化が進む中、堀跡としては唯一埋め立てられず残存していた。平成20年度に市が用地取得、平成21年度に整備を行い、平成22年度から公開している。

活用の状況

公開時間 午前9時～午後5時
（12月29日～1月3日除く）

1 2 - 3 他部局所管の文化財施設の状況

(1) 川越城本丸御殿〔博物館〕

指定名称 川越城本丸御殿及び家老詰所
種 別 県指定有形文化財 建造物
所 在 地 郭町2丁目13-1

本丸御殿は嘉永元年（1848）に当時の城主松平大和守齊典により建築された御殿建築。明治以降次第に解体され、玄関と大広間部分のみが残っている。昭和42年の県指定後に復原修理し、一般公開を開始した。家老詰所は昭和62年に復原移築された。



活用の状況

開館時間 午前9時～午後5時
休 館 日 月曜日（休日の場合は翌日）、第4金曜日（休日を除く）、12/29～1/3

現状変更・修理等の状況

なし

(2) 川越市蔵造り資料館〔博物館〕

指定名称 旧小山家住宅（店蔵・袖蔵）、
旧小山家住宅（住居棟、一番蔵、二番蔵、三番蔵、便所棟、稲荷社、門及び塀）
種 別 市指定有形文化財 建造物
所 在 地 幸町7-9

明治26年（1893）の川越大火直後に、煙草商を営む小山家（屋号万文）が建設した蔵造り商家。昭和52年から川越市文化財保護協会により蔵造り資料館として公開され、昭和58年に教育委員会の所管となった。耐震化事業を実施中である。



活用の状況 休館中

現状変更・修理等の状況

平成26年度の耐震診断調査、平成27年度の耐震化工事実施設計を受け、平成29年度より店蔵・添屋・住居棟・一番蔵の耐震化工事を開始した。平成30年度は店蔵・添屋の屋根解体、柱や桁の補修等を行ったが、工事請負業者が裁判所から民事再生手続廃止決定を受けたことに伴い工事請負契約解除に至り、平成30年10月に工事を中断した。工事再開に向け、令和元年度に修理内容等検討業務委託を行い、工事途中の建物を解体・調査し、その結果を基に建物を健全化した上で、より効果的な耐震化を図るという方針に改め、令和2年度に蔵造り資料館店蔵等解体格

納工事を実施した。令和3年度は解体調査結果に基づき、耐震化工事内容等を検討した結果、店蔵を先行して復原及び耐震化することとなった。令和4年度は、店蔵耐震化工事実施設計業務を行った。

(3) 旧川越織物市場、旧栄養食配給所〔都市景観課〕

指定名称及び所在地

旧川越織物市場 松江町2丁目11-10

旧栄養食配給所 松江町2丁目12-4

種 別 市指定有形文化財 建造物



旧川越織物市場は明治43年(1910)、衰退する川越の織物流通業界の起死回生策として建設された。旧栄養食配給所は当初は事務所だったとみられる建物で、昭和9年(1934)から昭和20年まで栄養食配給所が開設されていた。平成14年に建物、平成25年に土地を市が取得し、令和2年度から旧川越織物市場の復原工事を行っている。

現状変更・修理等の状況

旧川越織物市場東棟・西棟ほか整備工事(令和2年6月24日～令和4年9月30日)

旧栄養食配給所等整備工事(令和4年6月28日～令和5年10月31日予定)

(4) 川越市旧山崎家別邸、川越市旧山崎氏別邸庭園〔観光課〕

指定・登録名称及び種別

旧山崎家別邸 国重要文化財(建造物)

旧山崎氏別邸庭園 国登録記念物名勝地

所在地 松江町2丁目7-8



旧山崎家別邸は、「亀屋」の5代目嘉七氏の隠居所として大正13年(1924)に建設された、和洋折衷住宅と和風庭園。保岡勝也が設計した。

平成18年に市の所有となり、平成26年度に建物改修工事、平成27年度に植栽工事等を実施。平成28年度から庭園・母屋を一般公開している。

令和元年9月30日付で国の重要文化財に指定された。

活用の状況

通常公開のほか、プチ蔵と現代美術展(11月3日～11月12日)を実施した。

公開時間 4月～9月 午前9時30分～午後6時30分(入館は午後6時まで)

10月～3月 午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)

休館日 第1・3水曜日、12月29日～1月1日

現状変更・修理等の状況

なし

(5) 川越市産業観光館〔産業振興課〕

登録名称 旧鏡山酒造明治蔵、旧鏡山酒造
大正蔵、旧鏡山酒造昭和蔵
種 別 国登録有形文化財
所 在 地 新富町1丁目10-1



明治8年(1875)に創業した鏡山酒造の酒蔵である。平成12年(2000)に廃業した翌年市が土地と建物を取得し、平成19～20年度に建物改修工事を実施した。平成22年度から産業観光館「小江戸蔵里」として活用している。

活用の状況

指定管理により、地域の特産物などを提供する飲食・物販施設として活用している。

平成29年度には、昭和蔵を改装し、埼玉県内の地酒(現在32蔵)を取り扱う、酒蔵の特性を活かした歴史や文化を感じてもらえる魅力ある施設として保存・活用している。

現状変更・修理等の状況

なし

12-4 文化財の公開

令和4年度に公開届の提出された文化財は以下のとおりである。

(1) 博物館等での公開

	公開期間	公開した文化財	公開施設	展示会名称
1	11月12日～ 12月18日	県指定 彫刻 木造天海僧正坐像 市指定 絵画 堀河夜討図	市立美術館	市制施行100周年記念 指定文化財修理記念展示

(2) 川越まつり会館での山車展示

	公開期間	指定区分	公開した山車	保有町内
1	6月23日～ 8月23日	県指定	川越氷川祭の山車(浦島の山車)	松江町2丁目
2	8月24日～ 10月14日	県指定	川越氷川祭山車(秀郷の山車)	喜多町

1 3 埋蔵文化財

川越市内には、345カ所の埋蔵文化財包蔵地があり、これらは国・県の指導により分布調査を行い設定したものである。この包蔵地内で土木工事などの開発行為を行う場合には、工事に先立って、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要である。令和4年度は以下のとおり70件の試掘調査を実施した。試掘調査により埋蔵文化財の存在が認められた場合は開発者側と保存について協議を行い、開発によって破壊を免れない埋蔵文化財については、遺跡の姿を後世に伝えることを目的とした緊急発掘調査を実施している。令和4年度は13件の発掘調査を行い、多くの遺構が検出され、遺物が出土している。

1 3 - 1 埋蔵文化財調査一覧

(1) 発掘調査件数の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	10年間の合計
件数	4	1	4	4	4	8	5	4	12	13	52件
前年度からの継続	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	—
合計	4	2	4	5	5	8	5	4	12	14	—

(2) 発掘調査一覧

	遺跡名	調査回数	調査地番	原因	調査面積
			調査期間	調査主体	時代
1	藤原町遺跡	3次	藤原町7-4他 令和4年3月1日～6月30日	宅地造成 遺跡調査会	1,507㎡ 縄文
2	川越城跡	43次	郭町2丁目2-2 5月9日	個人住宅 教育委員会	12㎡ 近世
3	川越城跡	44次	郭町2丁目22-67 5月12日	個人住宅 教育委員会	4㎡ 近世
4	川越城跡	45次	郭町2丁目22-71・80・83 6月24日	建売住宅 遺跡調査会	11㎡ 近世
5	走下り西遺跡	2次	大字的場2536-1 5月25日	建売住宅 遺跡調査会	128㎡ 古代
6	日枝神社遺跡	5次	大字上戸315-47 7月21日～8月18日	共同住宅 遺跡調査会	187㎡ 古代
7	川越城跡	46次	郭町2丁目14-3・4・9・10・20・23・24 10月24日～11月28日	道路 教育委員会	150㎡ 古代
8	弁天南遺跡	17次	仙波町3丁目9-3 10月28日～11月30日	個人住宅 教育委員会	67㎡ 古代
9	弁天西遺跡	21次	小仙波町4丁目7-8・18 11月7日～令和5年2月9日	共同住宅 遺跡調査会	699㎡ 古墳
10	山王脇遺跡	14次	豊田町3丁目17-1・2・3・4 2月24日～3月10日	店舗 遺跡調査会	220㎡ 古代

	遺跡名	調査 回数	調査地番	原因	調査面積
			調査期間	調査主体	時代
11	山王脇遺跡	15 次	豊田町 3 丁目 17 - 3・4	道路建設	25㎡
			2月 24 日～3月 10 日	教育委員会	古代
12	山王久保遺跡	8 次	大字上戸 70 - 2、72 - 3	道路建設	61㎡
			3月 13 日～3月 28 日	教育委員会	古代
13	東下川原遺跡	5 次	大字の場 2568 - 1・2、 2569、2570 - 2、2581 - 1、2582 - 1、7	道路建設	703㎡
			3月 13 日～7月 3 日 (予定)	教育委員会	古代

(3) 試掘調査一覧

《結果欄について》
遺構なし…× 遺構あり…○ 本発掘調査実施…◎

	実施日	調査地番	調査面積 (㎡)	遺跡名	結果
1	4月 11 日	大字上戸 69 - 8	70	山王久保遺跡	×
2	4月 12 日	大字寺尾 290 - 12	71	寺尾貝塚	×
3	4月 15 日	大字寺尾 934 - 6	239	西向遺跡	×
4	4月 15 日	大字寺尾 934 - 2	239	西向遺跡	×
5	4月 20 日	豊田町 3 丁目 2 - 14・16	261	天屋坂遺跡	×
6	4月 20 日	大字下広谷 877 - 16・21・22	736	古海道東遺跡	×
7	4月 21 日	大字下広谷 633 - 7 外	2,314	天神前遺跡	×
8	5月 19 日	大字寺尾 838 - 6	60	田成遺跡	×
9	5月 19 日	稲荷町 2 - 5	384	藤原町遺跡	×
10	5月 23 日	大字上戸 376 - 3	154	龍光遺跡	×
11	5月 23 日 ～5月 24 日	大字安比奈新田 290 - 6、292 - 3、 293 - 3・8	2,366	水窪林遺跡	×
12	6月 3 日	大字寺尾 217 - 21・27・28・30・ 31・36	443	寺尾貝塚	×
13	6月 7 日	大字小堤 359 - 6	230	夜弊賀伎北遺跡	×
14	6月 7 日	大字小堤 359 - 5	234	夜弊賀伎北遺跡	×
15	6月 9 日	稲荷町 7 - 3・14	125	藤原町遺跡	×
16	6月 21 日	大字上戸 315 - 47	452	日枝神社遺跡	◎
17	7月 5 日	大字北田島 50～70 - 5	56	小池町遺跡	×
18	7月 7 日	大字鯨井 1877 - 1	388	浅間下遺跡	×
19	7月 19 日	大字の場 435 - 10	141	八幡前・若宮遺跡	×
20	7月 25 日	大字小堤 345 - 2・6	195	夜弊賀伎東遺跡	×
21	7月 28 日	大字寺尾 286 - 4	79	寺尾貝塚	×
22	8月 18 日	大字の場 2464 - 68	113	下宿東遺跡	×
23	8月 22 日	小仙波町 4 丁目 7 - 8・18	697	弁天西遺跡	◎
24	8月 26 日	郭町 2 丁目 - 21 - 17、22 - 75	407	川越城跡	○
25	9月 1 日	大字古谷上 4210 - 2、4211 - 3	488	善仲寺館跡	×
26	9月 9 日	仙波町 3 丁目 6 - 19・20・22	135	弁天南遺跡	×
27	9月 14 日	大字上戸 154 - 1 の一部、161 - 3、 162 - 1、164 - 1・2	796	天王遺跡	○
28	9月 15 日	大手町 11 - 25	107	川越城跡	×

	実施日	調査地番	調査面積 (m ²)	遺跡名	結果
29	9月22日	大字鴨田 1088-2・3	363	下居田町 B 遺跡	×
30	9月28日	大字的場 455-4、456-7	101	八幡前・若宮遺跡	×
31	9月29日	大字鯨井 1863-3	243	花見堂遺跡	×
32	9月30日	大字上戸 270-1の一部	380	新田屋敷遺跡	×
33	10月3日	大字小堤 359-7	229	夜弊賀伎北遺跡	×
34	10月6日	仙波町 3丁目 22-7・9の各一部	166	弁天南遺跡	○
35	10月12日	仙波町 3丁目 9-3	175	弁天南遺跡	◎
36	10月17日	大字上戸 227	1,988	新田屋敷遺跡	○
37	10月19日	大字寺尾 290-20	71	寺尾貝塚	×
38	10月20日	西小仙波町 1丁目 19-1	105	喜多院境内遺跡	×
39	10月25日	大字的場 786-3・6	330	五畑西遺跡	×
40	10月31日	上野田町 22-42	500	大下遺跡	×
41	11月7日	大字高島 511-1、33	1,067	高島遺跡	×
42	11月8日	西小仙波町 1丁目 17-1	67	喜多院境内遺跡	×
43	11月17日	大字的場 433-6	114	八幡前・若宮遺跡	×
44	11月22日	小仙波町 1丁目 102-19	98	喜多院境内遺跡	×
45	11月24日	大字小堤 359-8	222	夜弊賀伎北遺跡	×
46	11月25日	大字的場 2476-16	156	牛塚東遺跡	×
47	12月5日	藤原町 26-4・16~18	606	藤原町遺跡	×
48	12月6日	大字鯨井 1759-22	150	花見堂遺跡	×
49	12月19日	大字的場 895-1の一部	244	八幡前・若宮遺跡	○
50	1月6日	大字寺尾 300-9	86	寺尾貝塚	×
51	1月10日	小仙波町 5丁目 8-7・37~39	263	弁天西遺跡	○
52	1月11日	藤原町 26-12	705	藤原町遺跡	×
53	1月17日 ~1月18日	大字的場 2568-1・2、2569、2570-2、2581-1、2582-1、7	2,739	東下川原遺跡	◎
54	1月19日	大字的場 449-2・12の一部	956	八幡前・若宮遺跡	×
55	1月20日	新宿町 4丁目 11-23	910	新宿 4丁目遺跡	×
56	1月20日	大字鯨井 1749-2、1755-3	330	花見堂遺跡	○
57	1月23日 ~1月24日	豊田町 3丁目 17-1~6、19-7	4,721	山王脇遺跡	◎
58	1月27日	郭町 1丁目 9-10	388	川越城跡	◎
59	1月30日 ~1月31日	大字上戸 70-2、72-1の一部	1,998	山王久保遺跡	◎
60	2月2日	小仙波町 1丁目 4-7・10	271	喜多院境内遺跡	×
61	2月6日	小堤 541-6	278	新嘗井遺跡	×
62	2月7日	的場 2丁目 12-13	100	的場原南遺跡	×
63	2月8日	霞ヶ関東 4丁目 6-17	104	霞ヶ関遺跡	×
64	2月17日	大字古谷上 3736-1	491	赤城遺跡	×
65	2月28日	新宿町 1丁目 5-13	1,556	東裏遺跡	×
66	3月9日	大字寺尾 615-17	73	寺尾貝塚	×
67	3月20日	豊田町 2丁目 2-3	810	天屋坂遺跡	×
68	3月22日	小仙波町 2丁目 16-1	789	小仙波 2丁目 A 遺跡	×
69	3月24日	南大塚 3丁目 8-4	813	旭野遺跡	×
70	3月29日 ~3月30日	大字的場 617-1	2,963	西若宮遺跡	×

1 3 - 2 試掘調査

No. 1 山王久保遺跡 (19-50)

調査地番 大字上戸 69 - 8

調査面積 70㎡

調査日時 令和4年4月11日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No. 2 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 290 - 12

調査面積 71㎡

調査日時 令和4年4月12日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No. 3 西向遺跡 (19-143)

調査地番 大字寺尾 934 - 6

調査面積 239㎡

調査日時 令和4年4月15日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No. 4 西向遺跡 (19-143)

調査地番 大字寺尾 934 - 2

調査面積 239㎡

調査日時 令和4年4月15日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No. 5 天屋坂遺跡 (19-157)

調査地番 豊田町3丁目2-14・16

調査面積 261㎡

調査日時 令和4年4月20日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No. 6 古海道東遺跡 (19-5)

調査地番 大字下広谷 877-16・21・22

調査面積 736㎡

調査日時 令和4年4月20日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.7 天神前遺跡 (19-234)

調査地番 大字下広谷 633-7外

調査面積 2,314㎡

調査日時 令和4年4月21日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.8 田成遺跡 (19-141)

調査地番 大字寺尾 838-6

調査面積 60㎡

調査日時 令和4年5月19日

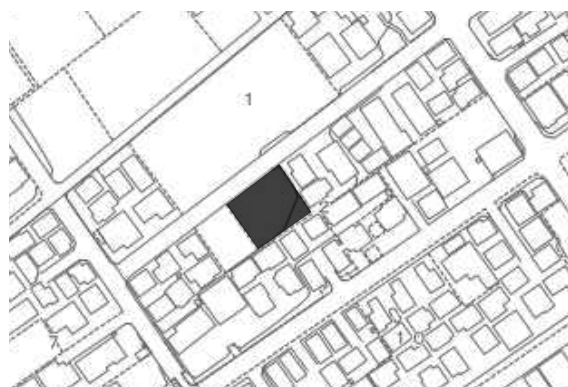
調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



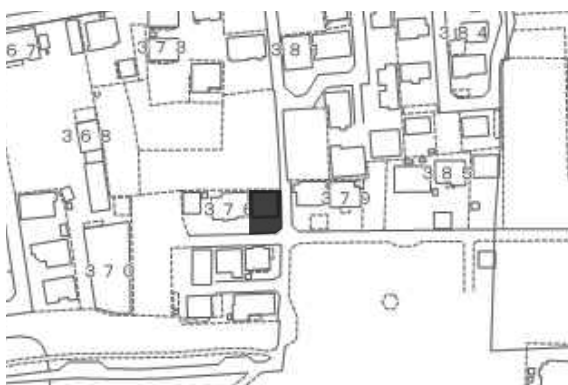
No.9 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 稲荷町2-5
調査面積 384㎡
調査日時 令和4年5月19日
調査原因 建売住宅
調査結果 遺構なし



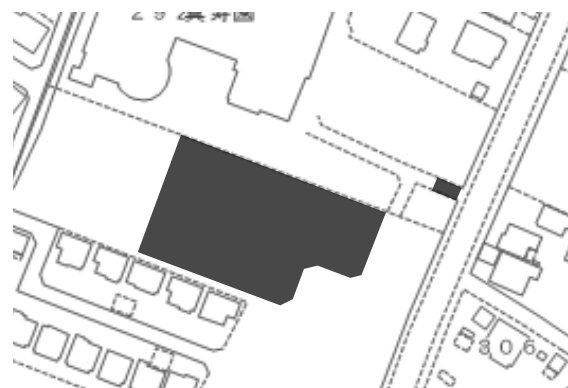
No.10 龍光遺跡 (19-47)

調査地番 大字上戸376-3
調査面積 154㎡
調査日時 令和4年5月23日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.11 水窪林遺跡 (19-65)

調査地番 大字安比奈新田290-6、
292-3、293-3・8
調査面積 2,366㎡
調査日時 令和4年5月23日～5月24日
調査原因 介護事業所
調査結果 遺構なし



No.12 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾217-21・27・28
・30・31・36
調査面積 443㎡
調査日時 令和4年6月3日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構なし



No.13 夜弊賀伎北遺跡 (19-173)

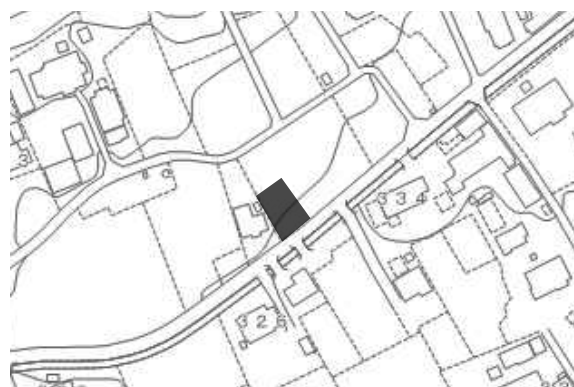
調査地番 大字小堤 359 - 6

調査面積 230㎡

調査日時 令和4年6月7日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.14 夜弊賀伎北遺跡 (19-173)

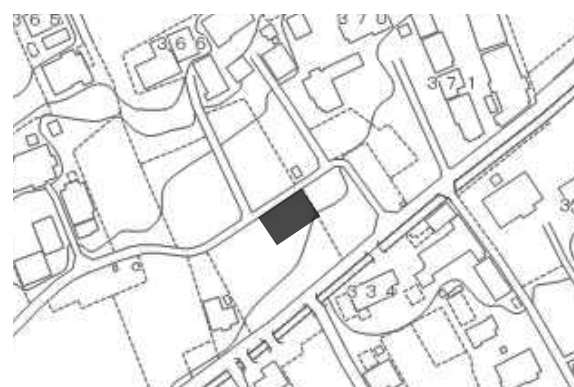
調査地番 大字小堤 359 - 5

調査面積 234㎡

調査日時 令和4年6月7日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.15 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 稲荷町 7 - 3・14

調査面積 125㎡

調査日時 令和4年6月9日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.16 日枝神社遺跡 (19-44)

調査地番 大字上戸 315 - 47

調査面積 452㎡

調査日時 令和4年6月21日

調査原因 共同住宅

調査結果 遺構あり (中世・地下式坑)

対応 日枝神社遺跡第5次調査



No.17 小池町遺跡 (19-275)

調査地番 大字北田島 50～70－5

調査面積 56㎡

調査日時 令和4年7月5日

調査原因 道路拡幅

調査結果 遺構なし



No.18 浅間下遺跡 (19-332)

調査地番 大字鯨井 1877－1

調査面積 388㎡

調査日時 令和4年7月7日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.19 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 435－10

調査面積 141㎡

調査日時 令和4年7月19日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.20 夜弊賀伎東遺跡 (19-26)

調査地番 大字小堤 345－2・6

調査面積 195㎡

調査日時 令和4年7月25日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.21 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 286 - 4

調査面積 79㎡

調査日時 令和4年7月28日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.22 下宿東遺跡 (19-311)

調査地番 大字的場 2464 - 68

調査面積 113㎡

調査日時 令和4年8月18日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.23 弁天西遺跡 (19-116)

調査地番 小仙波町 4丁目 7 - 8・18

調査面積 697㎡

調査日時 令和4年8月22日

調査原因 共同住宅

調査結果 遺構あり (古代・竪穴建物・溝・土坑)

対応 弁天西遺跡第21次調査



No.24 川越城跡 (19-89)

調査地番 郭町 2丁目 21 - 17、22 - 75

調査面積 407㎡

調査日時 令和4年8月26日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり (近世・造成層)

対応 現状保存



No.25 善仲寺館跡 (19-151)

調査地番 大字古谷上 4210 - 2、4211 - 3
調査面積 488㎡
調査日時 令和4年9月1日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



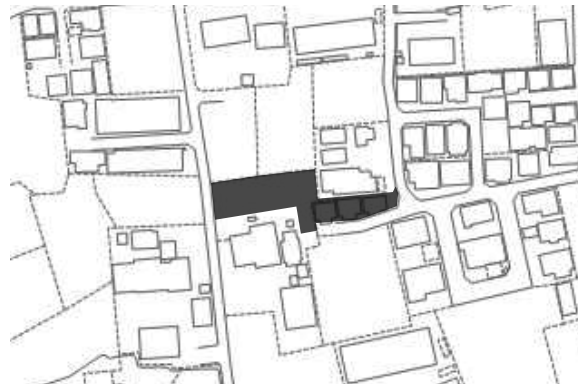
No.26 弁天南遺跡 (19-118)

調査地番 仙波町3丁目6-19・20・22
調査面積 135㎡
調査日時 令和4年9月9日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



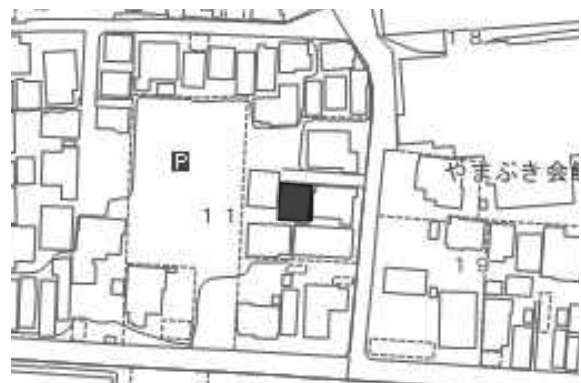
No.27 天王遺跡 (19-49)

調査地番 大字上戸 154 - 1の一部、
161 - 3、162 - 1、164 - 1・2
調査面積 796㎡
調査日時 令和4年9月14日
調査原因 共同住宅
調査結果 遺構あり (中世・溝)
対 応 現状保存



No.28 川越城跡 (19-89)

調査地番 大手町 11 - 25
調査面積 107㎡
調査日時 令和4年9月15日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.29 下居田町 B 遺跡 (19-249)

調査地番 大字鴨田 1088 - 2・3

調査面積 363㎡

調査日時 令和 4 年 9 月 22 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.30 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 455 - 4、456 - 7

調査面積 101㎡

調査日時 令和 4 年 9 月 28 日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.31 花見堂遺跡 (19-42)

調査地番 大字鯨井 1863 - 3

調査面積 243㎡

調査日時 令和 4 年 9 月 29 日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.32 新田屋敷遺跡 (19-48)

調査地番 大字上戸 270 - 1 の一部

調査面積 380㎡

調査日時 令和 4 年 9 月 30 日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.33 夜弊賀伎北遺跡 (19-173)

調査地番 大字小堤 359 - 7

調査面積 229㎡

調査日時 令和4年10月3日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.34 弁天南遺跡 (19-118)

調査地番 仙波町3丁目22-7・9の各一部

調査面積 166㎡

調査日時 令和4年10月6日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり(縄文・竪穴建物、古代・
竪穴建物)

対 応 現状保存



No.35 弁天南遺跡 (19-118)

調査地番 仙波町3丁目9-3

調査面積 175㎡

調査日時 令和4年10月12日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり(古墳~古代・竪穴建物)

対 応 弁天南遺跡第18次調査



No.36 新田屋敷遺跡 (19-48)

調査地番 大字上戸 227

調査面積 1,988㎡

調査日時 令和4年10月17日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり(古墳・竪穴建物3、溝1)

対 応 現状保存



No.37 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 290 - 20

調査面積 71㎡

調査日時 令和4年10月19日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.38 喜多院境内遺跡 (19-110)

調査地番 西小仙波町 1丁目 19 - 1

調査面積 105㎡

調査日時 令和4年10月20日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.39 五畑西遺跡 (19-298)

調査地番 大字的場 786 - 3・6

調査面積 330㎡

調査日時 令和4年10月25日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.40 大下遺跡 (19-161)

調査地番 上野田町 22 - 42

調査面積 500㎡

調査日時 令和4年10月31日

調査原因 個人住宅・合併浄化槽・貯留槽

調査結果 遺構なし



No.41 高島遺跡 (19-323)

調査地番 大字高島 511 - 1、33

調査面積 1,067㎡

調査日時 令和4年11月7日

調査原因 農業用物置兼車庫

調査結果 遺構なし



No.42 喜多院境内遺跡 (19-110)

調査地番 西小仙波町1丁目17-1

調査面積 67㎡

調査日時 令和4年11月8日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.43 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 433 - 6

調査面積 114㎡

調査日時 令和4年11月17日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.44 喜多院境内遺跡 (19-110)

調査地番 小仙波町1丁目102-19

調査面積 98㎡

調査日時 令和4年11月22日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.45 夜弊賀伎北遺跡 (19-173)

調査地番 大字小堤 359 - 8

調査面積 222㎡

調査日時 令和4年11月24日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.46 牛塚東遺跡 (19-308)

調査地番 大字的場 2476 - 16

調査面積 156㎡

調査日時 令和4年11月25日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.47 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 藤原町 26 - 4・16 ~ 18

調査面積 606㎡

調査日時 令和4年12月5日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.48 花見堂遺跡 (19-42)

調査地番 大字鯨井 1759 - 22

調査面積 150㎡

調査日時 令和4年12月6日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし (下層は確認できず)



No.49 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 895 - 1 の一部

調査面積 244㎡

調査日時 令和4年12月19日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり (平安・竪穴建物)

対応 現状保存



No.50 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 300 - 9

調査面積 86㎡

調査日時 令和5年1月6日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.51 弁天西遺跡 (19-116)

調査地番 小仙波町 5丁目 8 - 7・37 ~ 39

調査面積 263㎡

調査日時 令和5年1月10日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり
(古墳~古代・竪穴建物 6、溝 4、土坑 6)

対応 現状保存



No.52 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 藤原町 26 - 12

調査面積 705㎡

調査日時 令和5年1月11日

調査原因 共同住宅

調査結果 遺構なし



No.53 東下川原遺跡 (19-314)

調査地番 大字的場 2568 - 1・2、2569、
2570 - 2、2581 - 1、2582 - 1・7

調査面積 2,739㎡

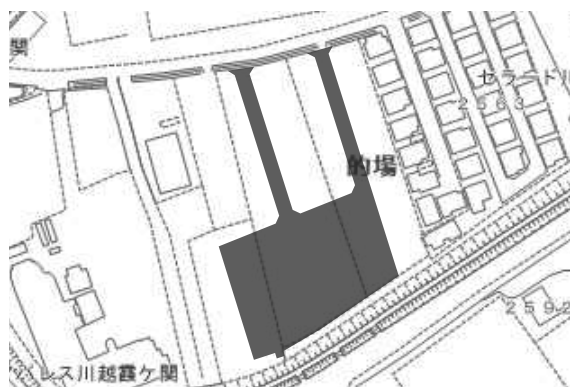
調査日時 令和5年1月17日～1月18日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり

(古墳～平安・竪穴建物7、溝2、土坑1)

対 応 東下川原遺跡第5次調査



No.54 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 449- 2・12の一部

調査面積 956㎡

調査日時 令和5年1月19日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.55 新宿4丁目遺跡 (19-125)

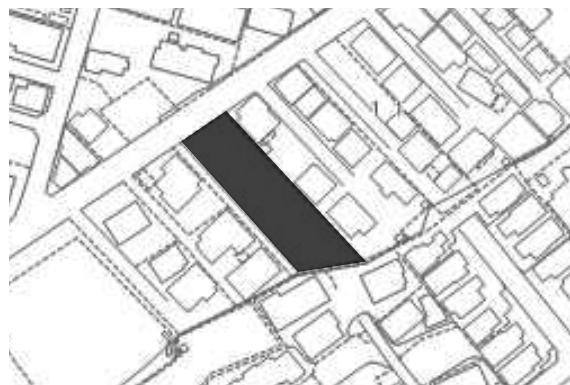
調査地番 新宿町 4丁目 11 - 23

調査面積 910㎡

調査日時 令和5年1月20日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.56 花見堂遺跡 (19-42)

調査地番 大字鯨井 1749 - 2、1755 - 3

調査面積 330㎡

調査日時 令和5年1月20日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構あり

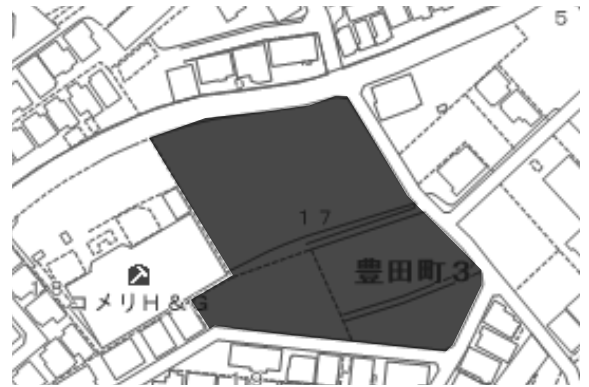
(中世・竪穴建物3、溝1、時期不明
堀跡1)

対 応 現状保存



No.57 山王脇遺跡 (19-156)

調査地番 豊田町3丁目 17-1～6、19-7
調査面積 4,721㎡
調査日時 令和5年1月23日～1月24日
調査原因 店舗・駐車場
調査結果 遺構あり(古代・竪穴建物)
対 応 山王脇遺跡第14・15次調査



No.58 川越城跡 (19-89)

調査地番 郭町1丁目 9-10
調査面積 388㎡
調査日時 令和5年1月27日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構あり(近世・堀、造成層)
対 応 川越城跡第47次調査



No.59 山王久保遺跡 (19-50)

調査地番 大字上戸 70-2、72-1の一部
調査面積 1,998㎡
調査日時 令和5年1月30日～1月31日
調査原因 宅地造成
調査結果 遺構あり(中世・竪穴建物4)
対 応 山王久保遺跡第8次調査



No.60 喜多院境内遺跡 (19-110)

調査地番 小仙波町1丁目 4-7・10
調査面積 271㎡
調査日時 令和5年2月2日
調査原因 個人住宅
調査結果 遺構なし



No.61 新嘗井遺跡 (19-25)

調査地番 大字小堤 541 - 6

調査面積 278㎡

調査日時 令和5年2月6日

調査原因 個人住宅、合併浄化槽、貯留槽

調査結果 遺構なし



No.62 的場原南遺跡 (19-299)

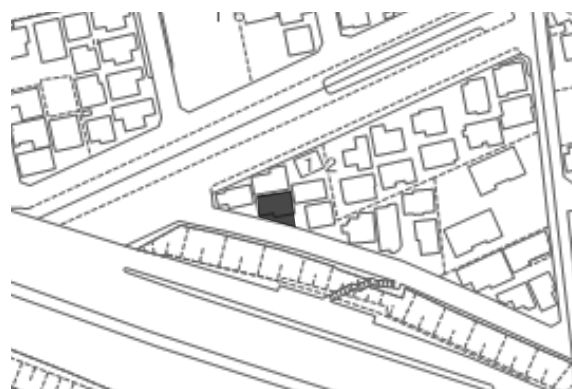
調査地番 的場 2丁目 12 - 13

調査面積 100㎡

調査日時 令和5年2月7日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.63 霞ヶ関遺跡 (19-51)

調査地番 霞ヶ関東 4丁目 6 - 17

調査面積 104㎡

調査日時 令和5年2月8日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.64 赤城遺跡 (19-265)

調査地番 大字古谷上 3736 - 1

調査面積 491㎡

調査日時 令和5年2月17日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.65 東裏遺跡 (19-122)

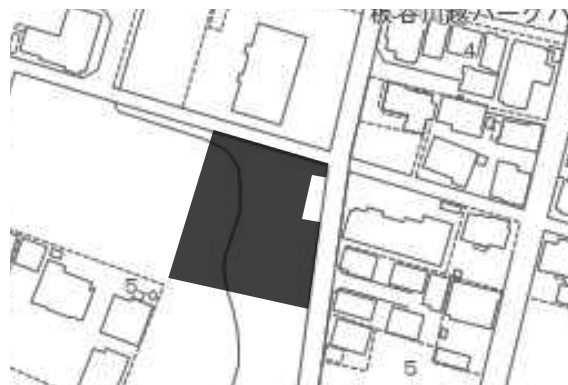
調査地番 新宿町1丁目5-13

調査面積 1,556㎡

調査日時 令和5年2月28日

調査原因 福祉施設

調査結果 遺構なし



No.66 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾615-17

調査面積 73㎡

調査日時 令和5年3月9日

調査原因 建売住宅

調査結果 遺構なし



No.67 天屋坂遺跡 (19-157)

調査地番 豊田町2丁目2-3

調査面積 810㎡

調査日時 令和5年3月20日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.68 小仙波2丁目A遺跡 (19-106)

調査地番 小仙波町2丁目16-1

調査面積 789㎡

調査日時 令和5年3月22日

調査原因 分譲住宅

調査結果 遺構なし



No.69 旭野遺跡 (19-220)

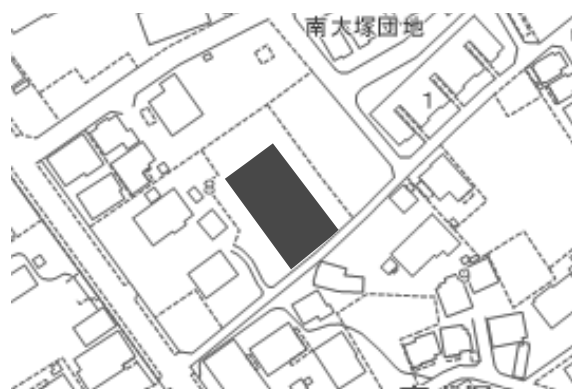
調査地番 南大塚3丁目8-4

調査面積 813㎡

調査日時 令和5年3月24日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.70 西若宮遺跡 (19-58)

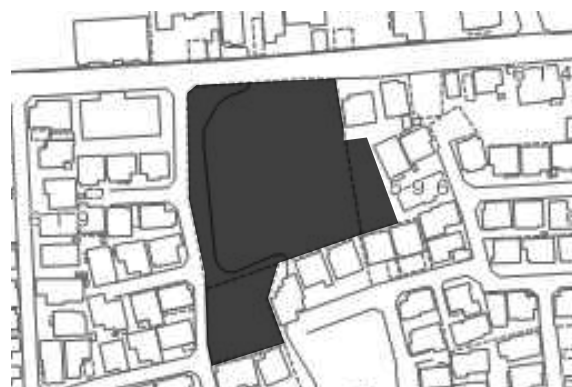
調査地番 大字の場617-1

調査面積 2,963㎡

調査日時 令和5年3月29日～3月30日

調査原因 分譲住宅

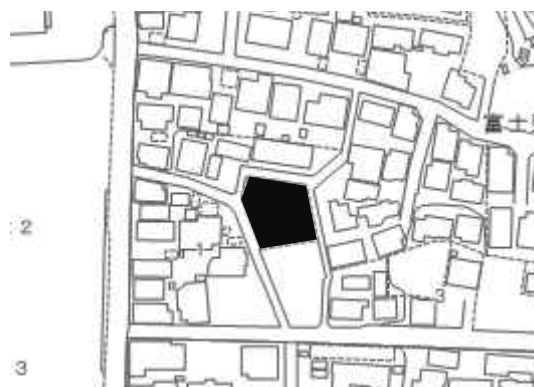
調査結果 遺構なし



1 3 - 3 教育委員会の発掘調査

(1) 川越城跡第 43 次調査

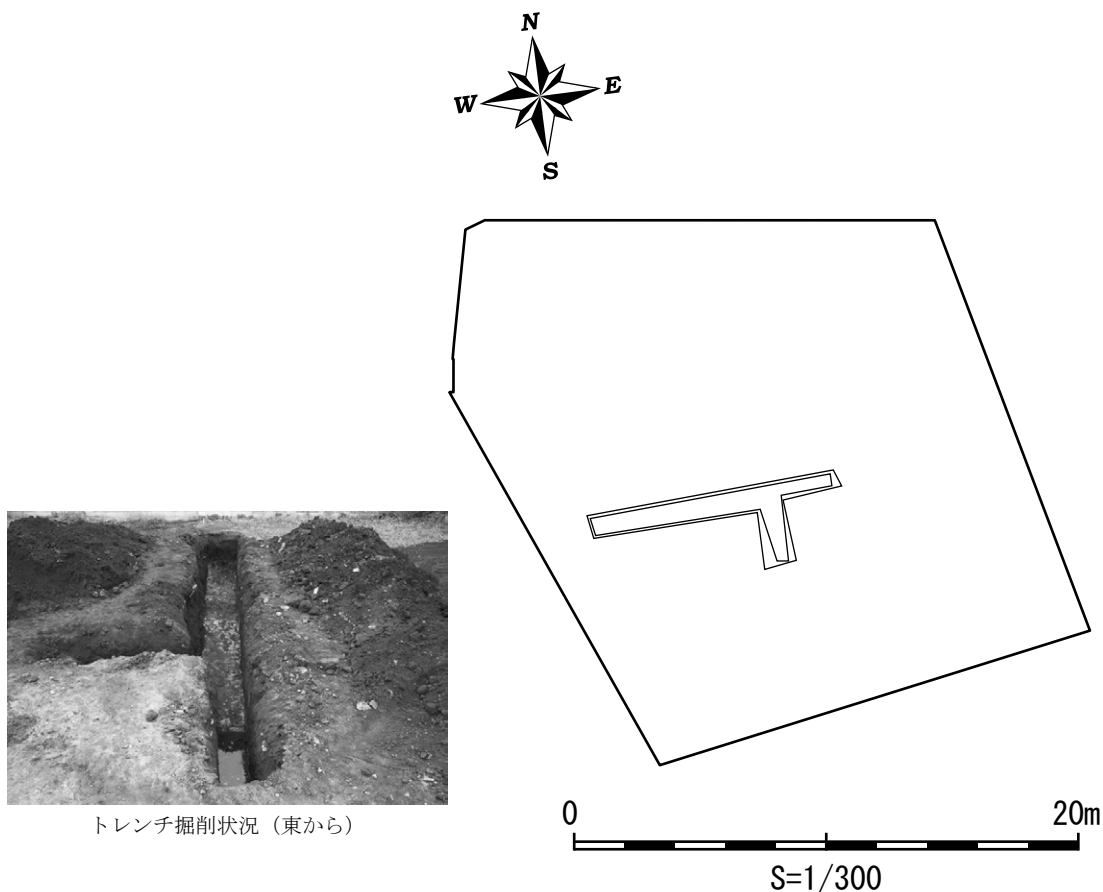
調査地番 川越市郭町 2 丁目 2 - 2
調査期間 令和 4 年 5 月 9 日
調査面積 12m²
調査原因 個人住宅建設
通知番号 川教文発第 108 号
令和 4 年 4 月 28 日



遺跡概要

川越城は武蔵野台地の最北端に立地する。慶応 3 年（1867）頃の川越城を描いたとされる絵図によると、本調査地点は南大手門の東側に位置し、土塁と外堀があったとされる場所にあたる。

本調査ではトレンチを 1 か所設定し、調査を行った結果、川越城の造成層が確認された。ただし、遺物は出土しなかったため、造成が行われた時期の推測はできなかった。



川越城遺跡第 43 次調査 遺構平面図

(2) 川越城跡第 44 次調査

調査地番 川越市郭町 2 丁目 22 - 67
調査日 令和 4 年 5 月 12 日
調査面積 4 m²
調査原因 個人住宅建設
通知番号 川教文発第 125 号
令和 4 年 5 月 11 日



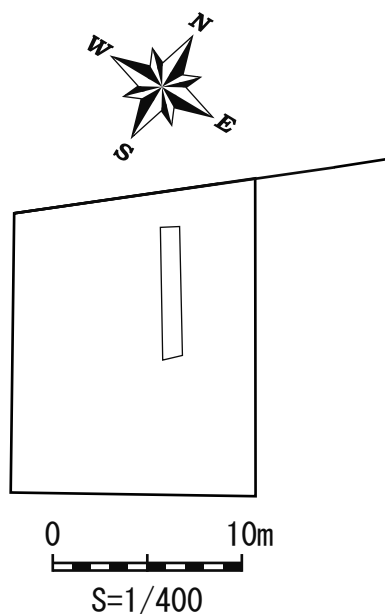
遺跡概要

川越城は武蔵野台地の最北端に立地し、慶応 3 年（1867）頃の川越城を描いたとされる絵図によると、田曲輪南側の土塁と外堀があったとされる場所にあたる。本調査地点に隣接する南側の宅地部分において、ブロック塀設置に先立つ第 42 次調査が令和 3 年 11 月 5 日に実施されており、その結果、上層で砂利混じりの土層が幾重にも重なり、下層で青灰色の粘土層が分厚く堆積していることが確認された。

本調査ではトレンチを 1 か所設定し、調査を行った結果、川越城の造成層が確認された。ただし、遺物は出土しなかったため、造成が行われた時期の推測はできなかった。



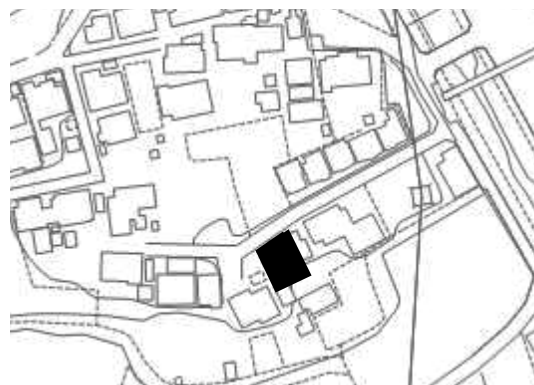
トレンチの掘削状況（北西から）



川越城跡第 44 次調査 遺構平面図

(3) 川越城跡第 46 次調査

調査地番 川越市郭町 2 丁目 14 - 3 ・ 4
・ 9 ・ 10 ・ 20 ・ 23 ・ 24
調査期間 令和 4 年 10 月 24 日
～令和 4 年 11 月 28 日
調査面積 150㎡
調査原因 道路建設
通知番号 川教文発第 495 号
令和 4 年 9 月 20 日

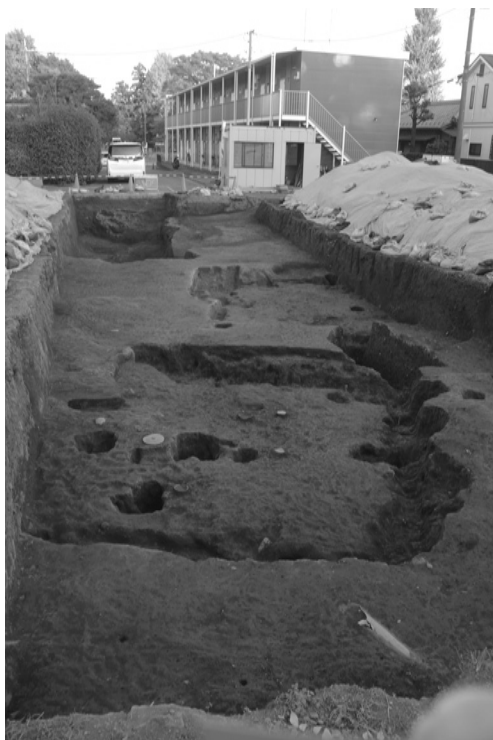


遺跡概要

調査対象地は、慶応 3 年頃の川越城を描いたとされる絵図によると本丸南側の馬場及び土塁があったとされる場所にあたるが、調査の結果、江戸時代の造成土は既に削られており、確認されなかった。

一方、古代の竪穴建物が 2 軒、井戸跡が 1 基と堀状の遺構を検出した。竪穴建物はどちらも北よりやや東に傾き、調査区外に広がっている。第 2 号竪穴建物の床面直上からは須恵器の坏や坏蓋がほぼ完形の状態で複数出土した。

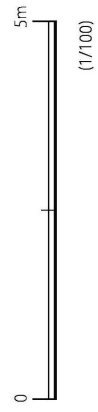
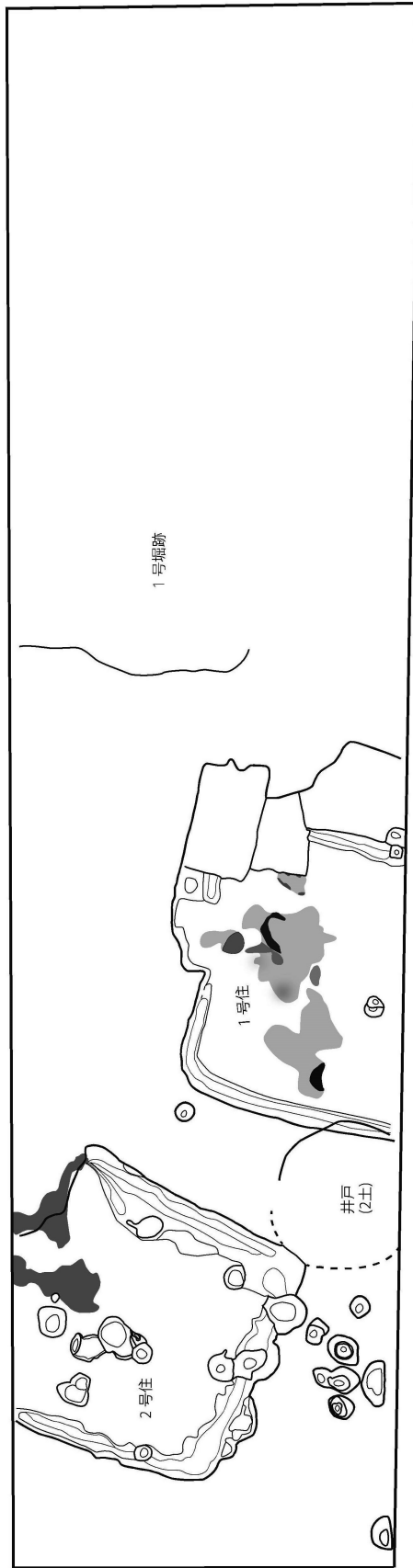
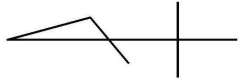
堀状の遺構は法面を版築状につき固めて整形した痕跡を確認した。遺物は出土しなかった。



調査区全体（西から）



堀状遺構断面（南から）



川越城跡第46次調査全体図

(4) 弁天南遺跡第 17 次調査

調査地番 川越市仙波町 3 丁目 9 - 3
調査期間 令和 4 年 10 月 28 日
～令和 4 年 11 月 30 日
調査面積 67㎡
調査原因 個人住宅
通知番号 川教文発第 574 号
令和 4 年 10 月 20 日



遺跡概要

弁天南遺跡は武蔵野台地の最北端の東側縁辺、東側に荒川低地を臨む台地上に位置する。近接する弁天西遺跡、小仙波四丁目遺跡とあわせて、縄文時代と、古墳時代から古代（奈良時代～平安時代）にかけての集落である。これらは官衙的性格の強い遺物が出土することが知られており、古くから地域の中心的な場所であったと考えられている。また周辺では中世の堀や地下式坑なども見つかっており、断続的に人々が利用し続けてきた土地でもある。

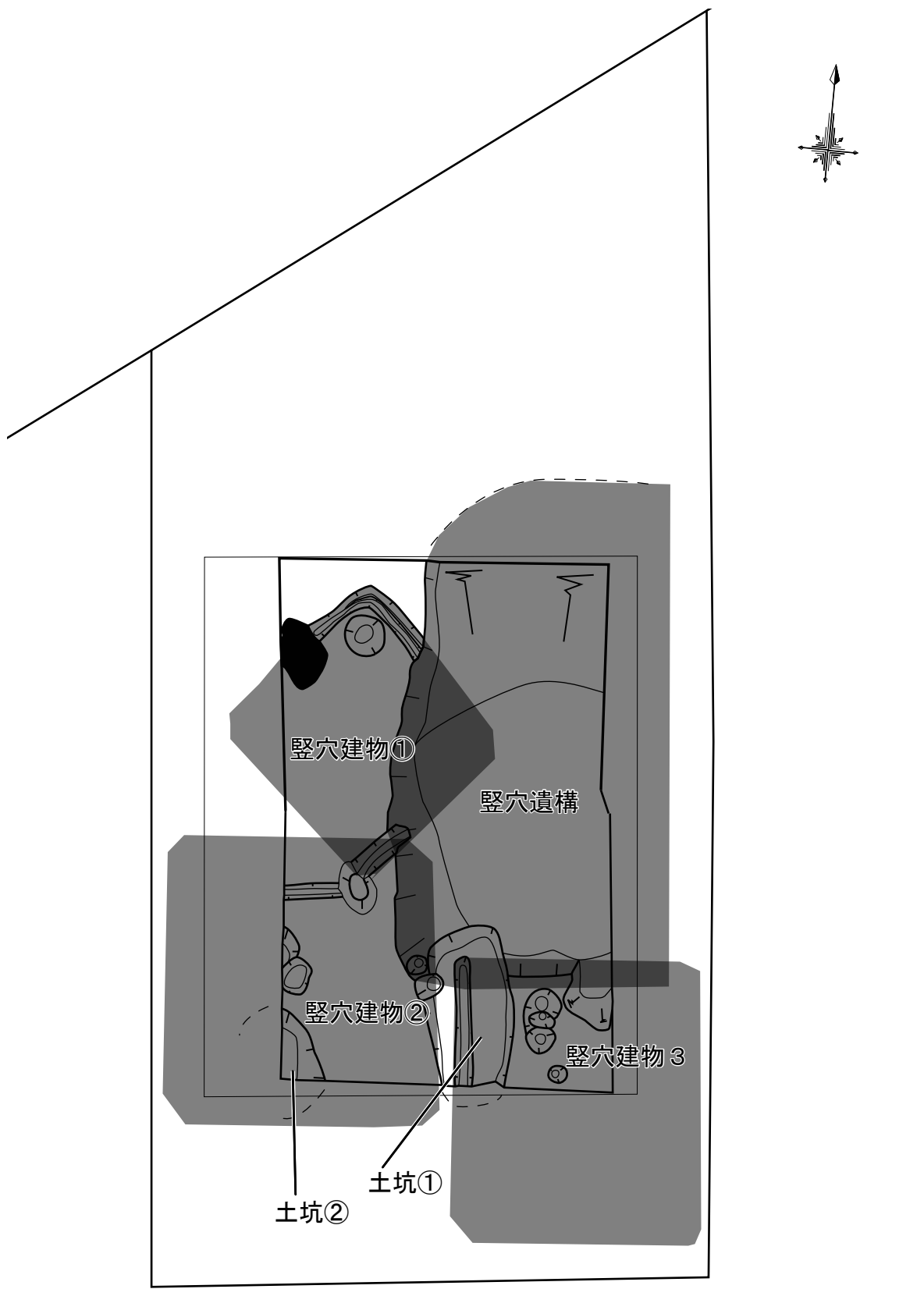
今回の調査では、調査区の全体で高密度に遺構が検出された。限られた範囲での調査であり、またいずれの遺構も重複して切り合っていたため、遺構の全容は不明であるが、6つの遺構が重なっていると結論付けた。

竪穴建物①～③からは奈良時代の中頃～平安時代初期の須恵器の坏や蓋が出土した。土坑①・②も同じ時期のものと考えられる。

またそれらよりも新しい大形の竪穴遺構を検出した。時期を明確には特定していないが、古代の竪穴建物を壊しており、広範囲を緩やかな斜度で掘削していることから、中世の造成の痕跡ではないかと推察している。なお、遺構の切り合い関係から、竪穴建物①→竪穴建物②→土坑①・②→竪穴建物③→竪穴遺構の順番に構築されたと考えられる



調査区北側完掘状況



※発掘調査区外の遺構の状況は、試掘調査の結果も踏まえ推定復元した。

0 5m
S=1/100

弁天南遺跡第17次調査全体図

(5) 山王脇遺跡第 15 次調査

調査地番 川越市豊田町 3 丁目 1 7 - 3 ・ 4
調査期間 令和 5 年 2 月 24 日
～令和 5 年 3 月 10 日
調査面積 25m²
調査原因 道路建設
通知番号 川教文発第 828 号
令和 5 年 1 月 23 日



遺跡概要

山王脇遺跡は武蔵野台地の北端、川越台の北西側崖線沿いの台地上に展開する古墳時代後期から古代にかけての集落遺跡である。遺跡範囲内の西側には、7 世紀第 3 四半期に築造された上円下方墳である国指定史跡山王塚古墳がある。

第 15 次調査は、山王塚古墳から北西約 200 m の地点で計画された開発行為に伴う道路建設に関係するものである。古代の竪穴建物 1 軒を検出した。

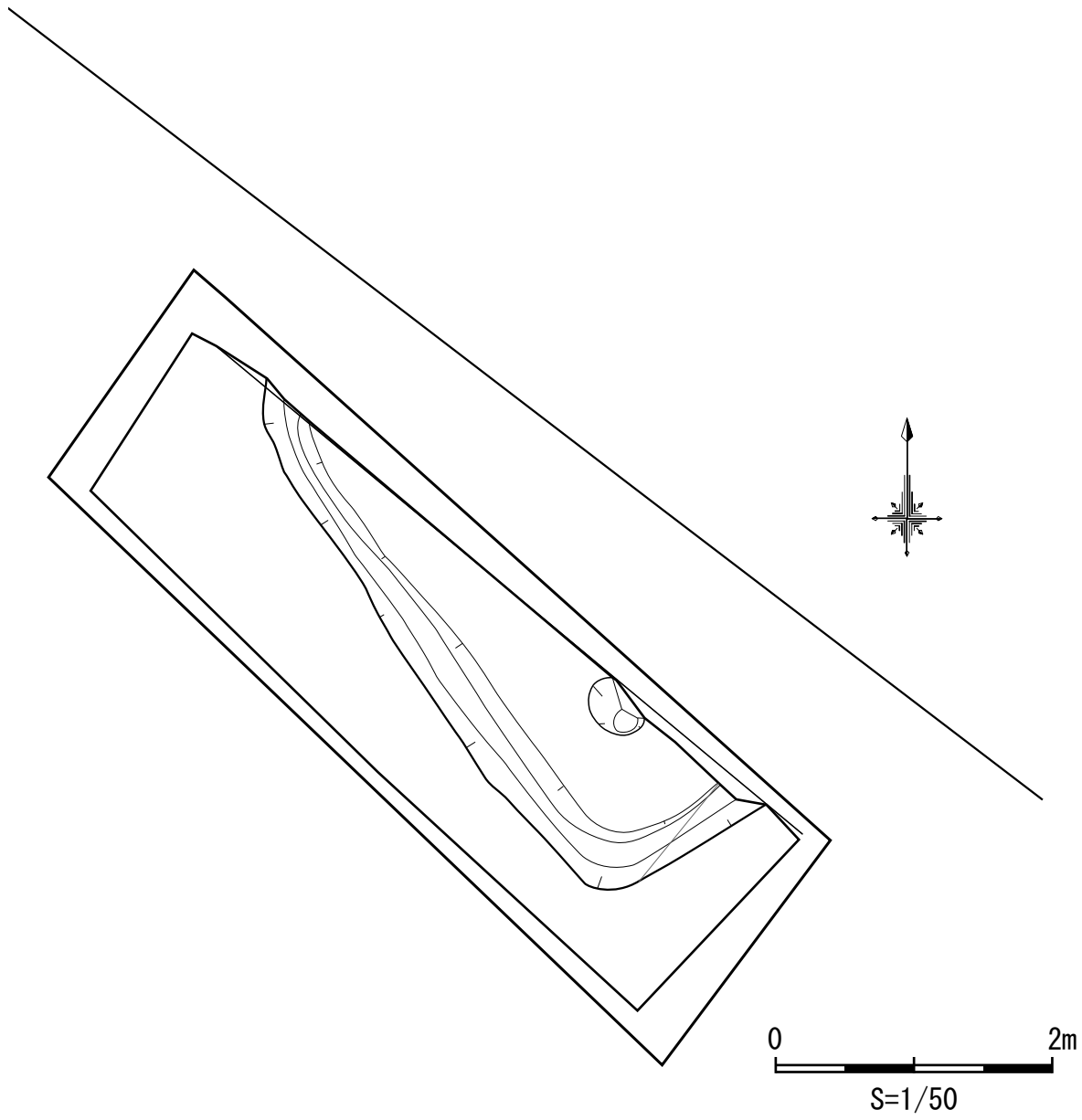
遺構の大半は調査区外で、南西側の一端を検出したのみであるため全体像は不明であるが、平面形は一辺が 4.5 m 程度の方形ないしは矩形を呈するものと考えられる。時期は 7 世紀末頃であり、第 14 次調査の 1 号竪穴建物と同時期である。柱穴を 1 基検出した。



1 号竪穴建物検出状況（北から）



1 号竪穴建物完掘状況（北から）



山王脇遺跡第 15 次調査 1 号竪穴建物 平面図

(6) 山王久保遺跡第8次調査

調査地番 川越市大字上戸 70 - 2、72 - 3
調査期間 令和5年3月13日
～令和5年3月28日
調査面積 61㎡
調査原因 道路建設
通知番号 川教文発第934号
令和5年3月6日



遺跡概要

山王久保遺跡は、市内西部の上戸地区に位置し、周辺には多くの遺跡が存在する。国指定史跡河越館跡をはじめ、古屋敷遺跡、新田屋敷遺跡、花見堂遺跡、龍光遺跡、天王遺跡、霞ヶ関遺跡、日枝神社遺跡と市内でも古墳時代後期から奈良・平安時代の遺跡が多い地域である。

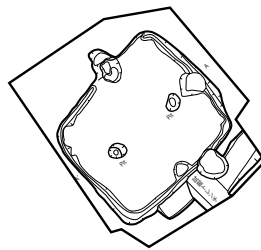
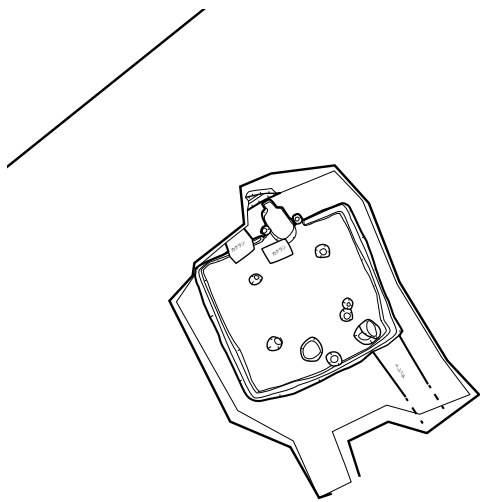
当調査は道路建設予定に先立ち実施した試掘調査で、古代の竪穴建物2軒を検出したため行われた。第1号竪穴建物は東西5m、南北4.5mの大きさで、ほぼ正方形を呈する。4つの柱穴と竪穴建物の北側やや東寄りにカマドが確認された。第2号竪穴建物は東西4.5m、南北3.7mの大きさで、歪な方形を呈する。第1号竪穴建物よりも規模が小さく、やや西に傾き、また柱穴は2本のみ確認された。一方、共通して北側にカマドが検出された。



1号竪穴建物完掘状況（南から）



2号竪穴建物完掘状況（南から）

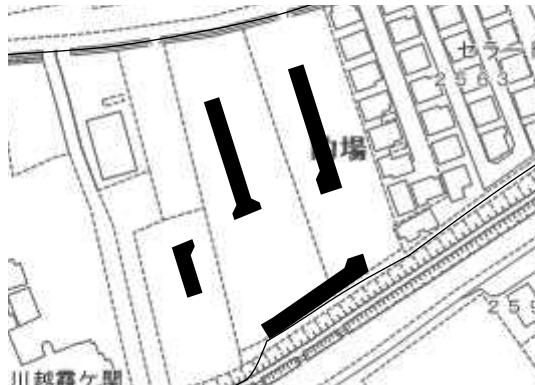


0 5m
(1/200)

山王久保遺跡第8次調査平面図

(7) 東下川原遺跡第5次調査

調査地番 川崎市大字的場 2568 - 1・2、
2569、2570 - 2、2581 - 1、
2582 - 1・7
調査期間 令和5年3月13日
～令和5年7月3日（予定）
調査面積 703㎡
調査原因 道路建設
通知番号 川教文発第941-1号
令和5年3月8日



遺跡概要

東下川原遺跡は入間川北岸、入間川によって形成された沖積低地に立地する。周辺には牛塚古墳や国指定史跡河越館跡、霞ヶ関遺跡、八幡前・若宮遺跡がある。

これまで4次にわたる調査が東下川原遺跡で実施され、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴建物や中世の大溝が検出された。令和4年度に実施した調査では竪穴建物のプランが検出されており、当該地点にも古墳時代後期から平安時代にかけての集落が広がっているものと推測された。



遺構検出状況



遺構検出状況



遺構検出状況

13-4 遺跡調査会の発掘調査

(1) 藤原町遺跡第3次調査

調査地番 川越市藤原町7-4他
調査期間 令和4年3月1日
～令和4年6月30日
調査面積 1,507㎡
調査原因 宅地造成
通知番号 教文資第2-44号
令和4年2月28日



遺跡概要

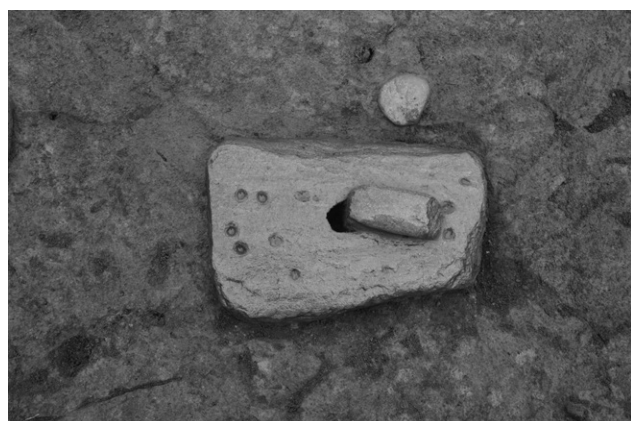
藤原町遺跡は、川越台地の東端に位置し、東武東上線・新河岸駅から約800m南に所在する。周辺には、寺尾貝塚、稲荷町遺跡等、縄文時代中期の遺跡が存在している。

平成5年に実施された第1次調査では、縄文時代中期の竪穴建物を24軒、掘立柱建物のピット群、集石遺構が検出され、当遺跡には北西部から南西をめぐる円弧状の集落があったことが指摘されている。

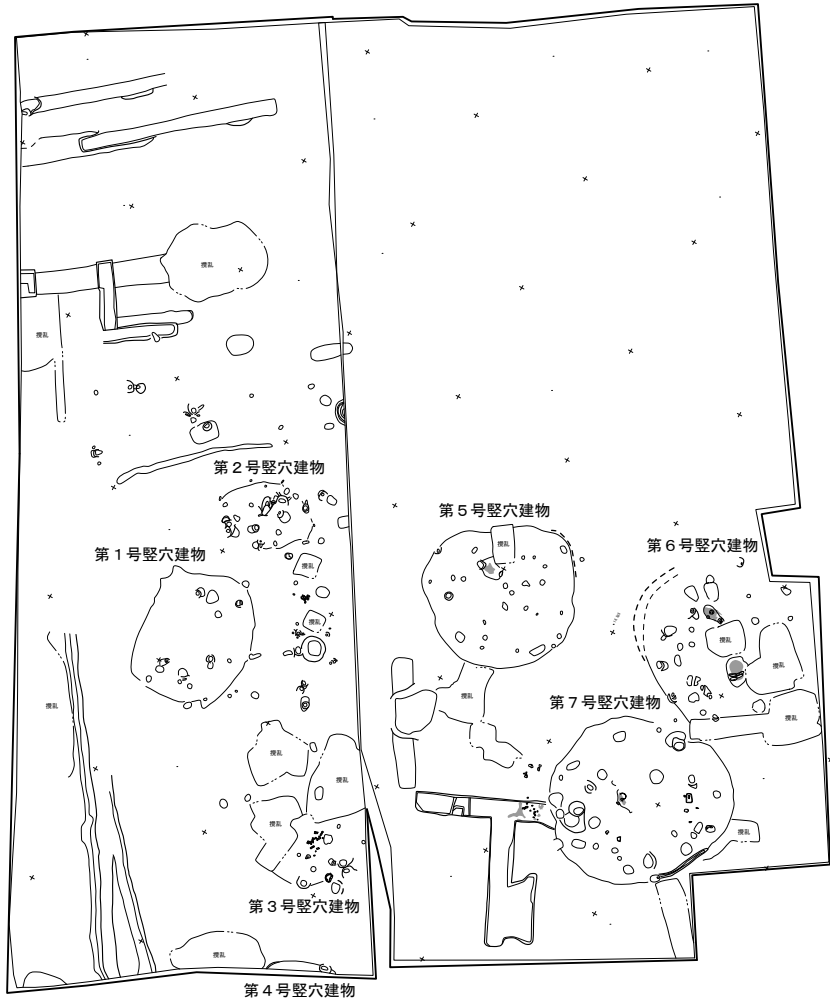
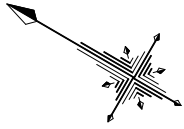
第3次調査は、令和3～4年度にかけて実施した。令和4年度は調査区東側を調査し、縄文時代中期の竪穴建物を3軒確認した。第5～6号竪穴建物はいずれも円形を呈し、埋嚢を複数基検出した。第5号竪穴建物からは石組み炉と思われる炉跡を検出した。第6号竪穴建物からは、床面直上で石皿を転用した有孔石器と磨製石斧が重なった状態で出土し、住居内での儀礼が行われた痕跡を確認した。市内では縄文時代の以降の遺構の検出が少ない中、当調査では多数の竪穴建物を確認し、往時の様子を伺う貴重な資料を豊富に得られた。



東側調査区全体写真



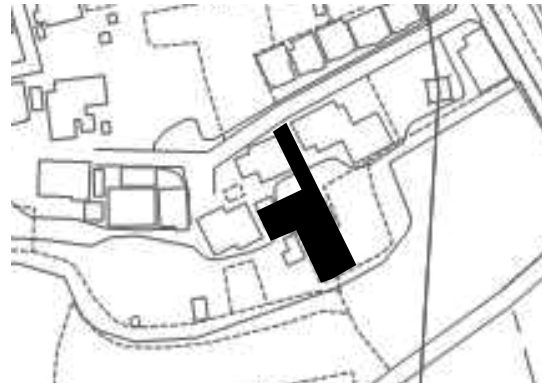
石皿と石斧出土状況（東から）



藤原町遺跡第3次調査全体図

(2)川越城跡第 45 次調査

調査地番 川越市郭町 2 丁目 22 - 71 ・
80 ・ 83
調査期間 令和 4 年 6 月 24 日
調査面積 11㎡
調査原因 建売住宅建設
通知番号 教文資第 2 - 2 1 号
令和 4 年 6 月 2 1 日



遺跡概要

川越城は武蔵野台地の最北端に立地し、慶応 3 年（1867）頃の川越城を描いたとされる絵図によると、田曲輪南側の土塁と外堀があったとされる場所にあたる。本調査地点の南側において、ブロック塀設置に先立つ第 42 次調査が令和 3 年 11 月 5 日に実施されており、その結果、上層で砂利混じりの土層が幾重にも重なり、下層で青灰色の粘土層が分厚く堆積していることが確認された。

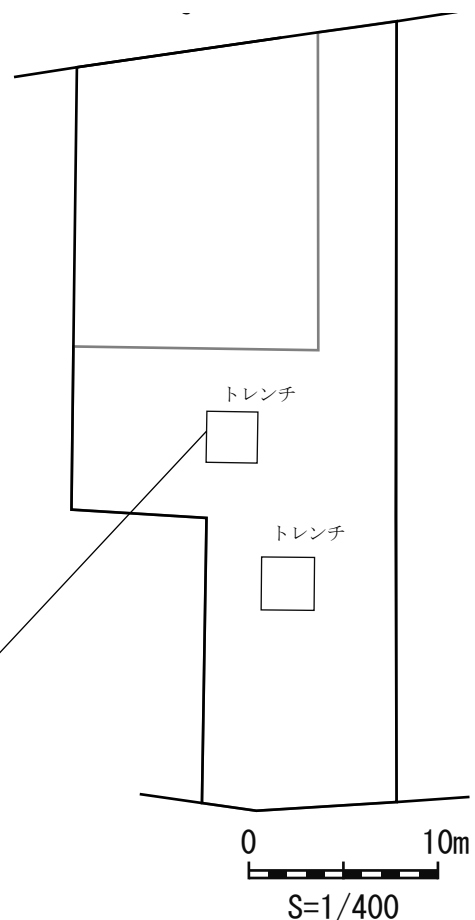
当該地点の試掘調査によって確認されたのは、川越城の曲輪の造成面のみであった。この結果を受け、本調査では造成面の堆積状況を確認することを目的にトレンチを 2 か所設定し、調査を行った。その結果、川越城の造成土の一部が確認された。なお、遺物は出土しなかったため、造成が行われた時期の推測はできなかった。



調査区全景（北東から）



土層堆積状況（東から）



(3) 走下り西遺跡第2次調査

調査地番 川越市大字的場 2536 - 1
調査期間 令和4年5月25日
調査面積 128㎡
調査原因 建売住宅建設
通知番号 教文資第2-3号
令和4年4月26日



遺跡概要

走下り西遺跡は、入間川左岸の入間台地の南端に位置しており、すぐ南側に入間川の沖積低地を臨む。周辺には古墳時代から古代にかけての集落である豊後山遺跡や東下川原遺跡、そして円墳の周溝と主体部が調査された牛塚東遺跡が所在する。

本遺跡の第1次調査は平成19年4月1日から同年4月11日にかけて実施された。その結果、古墳時代後期の円墳から轡（くつわ）の銜（はみ）と思われる馬具が出土したことに加え、奈良時代の竪穴建物2棟、室町時代（15世紀後半）の鍛冶炉2基、石組のものを含む井戸4基、竪穴状遺構4基が調査された。

今回の調査では、遺跡の包含層が当該地点にまで広がっていることが確認された。



トレンチ掘削状況



トレンチ掘削状況

(4) 日枝神社遺跡第5次調査

調査地番 川越市大字上戸 315 - 47
調査期間 令和4年7月21日
～令和4年8月18日
調査面積 187㎡
調査原因 共同住宅建設
通知番号 教文資第2 - 26号
令和4年7月20日



遺跡概要

日枝神社遺跡は、入間台地の北部に位置し、東には史跡河越館跡が所在する。遺跡名の由来である上戸日枝神社は、本殿が市の有形文化財に、境内が市の史跡に指定されている。もとは新日吉山王権現と称し、河越氏が平安時代末に京都から新日吉社を勧請したことが始まりとされており、河越氏と深い結びつきがある神社である。

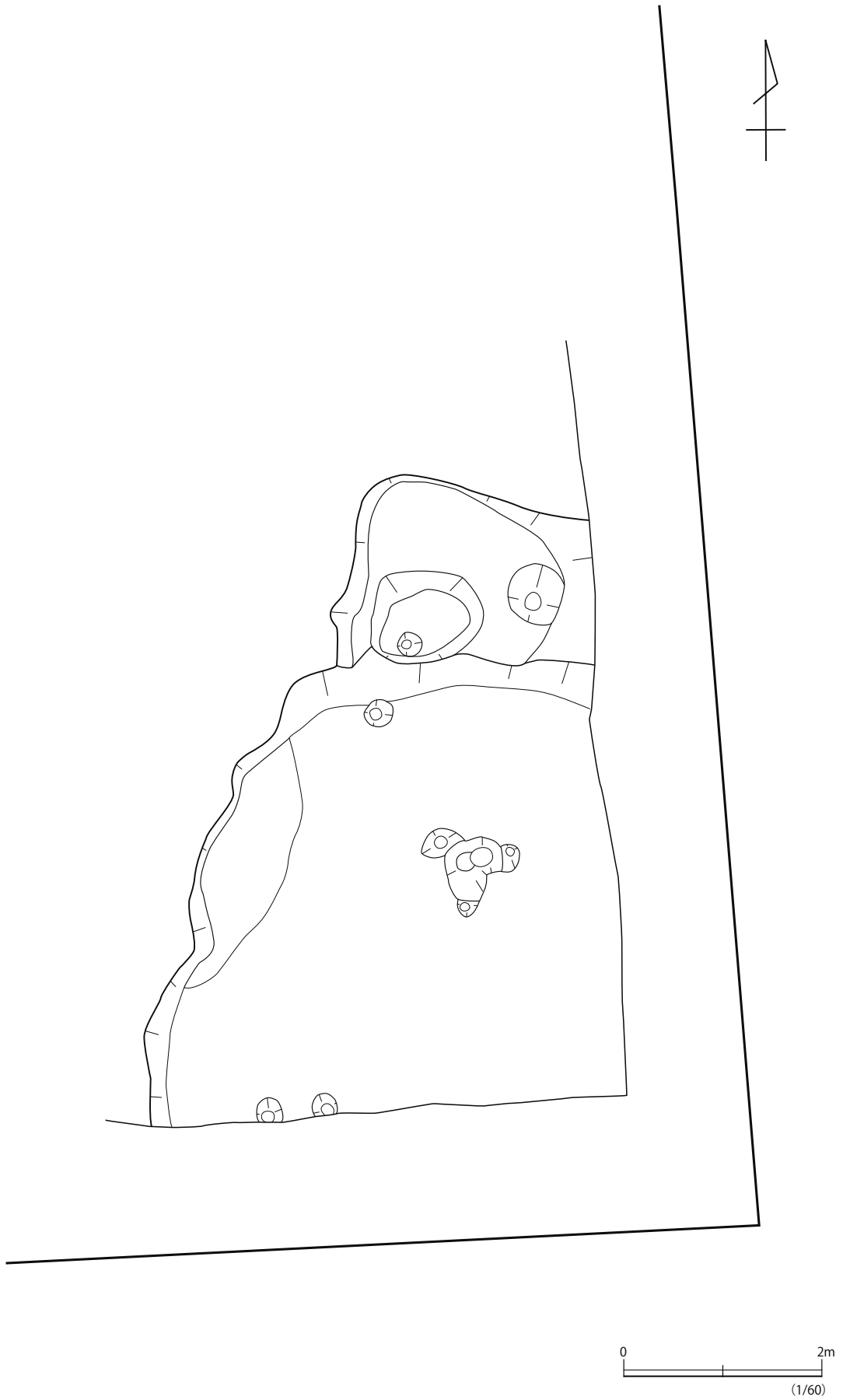
今回の調査では、中世の竪穴建物状遺構を1軒確認した。この遺構は約1/3が調査区外に広がっており、隅丸方形を呈していると想定される。柱穴は確認されず、遺構の中央付近に複数の柱穴が集中して検出された。床面付近からは布目瓦が複数点出土しており、住居とは異なる性格を持つ遺構であると考えられる。



竪穴建物状遺構の中央で検出した柱跡（北から）



調査区全体写真



日枝神社遺跡第5次調査全体図

(5) 弁天西遺跡第 21 次調査

調査地番 川越市小仙波町 4 丁目 7 - 8 ・ 18
調査期間 令和 4 年 11 月 7 日
～令和 5 年 2 月 9 日
調査面積 699㎡
調査原因 アパート建替工事
通知番号 教文資第 2 - 34 号
令和 4 年 10 月 26 日



遺跡概要

弁天西遺跡は、武蔵野台地北東縁の川越台に立地する。市内でも有数の遺跡が密集する地帯の 1 つで、周辺には弁天南遺跡、小仙波四丁目遺跡、小仙波古代集落遺跡、中院遺跡、喜多院境内遺跡がある。

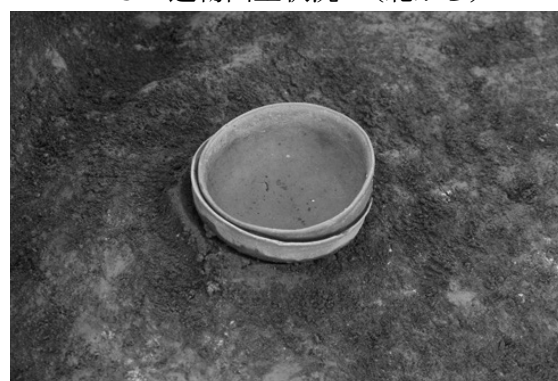
これまで 20 次にわたる調査が弁天西遺跡で実施され、古墳時代前期から平安時代を中心に数多くの遺構が検出されてきた。今回の調査では古墳時代後期の竪穴建物 1 棟、古墳時代後期から平安時代と思われる竪穴建物 4 棟、古墳時代中期以降と考えられる円墳の周溝 1 条、古墳時代以降と考えられる溝 8 条、時期不明土坑 5 基、時期不明炉穴 3 基、100 基を超える時期不明のピットが検出された。竪穴建物のうち、SI4 は大部分が削平され、往時の形状を伺うことは難しい。SI5 も同様に、辛うじて硬化面が残っていたにすぎなかった。一方、良好な遺存状態であった SI2 からは、良好な資料も床面直上付近から多数出土した。



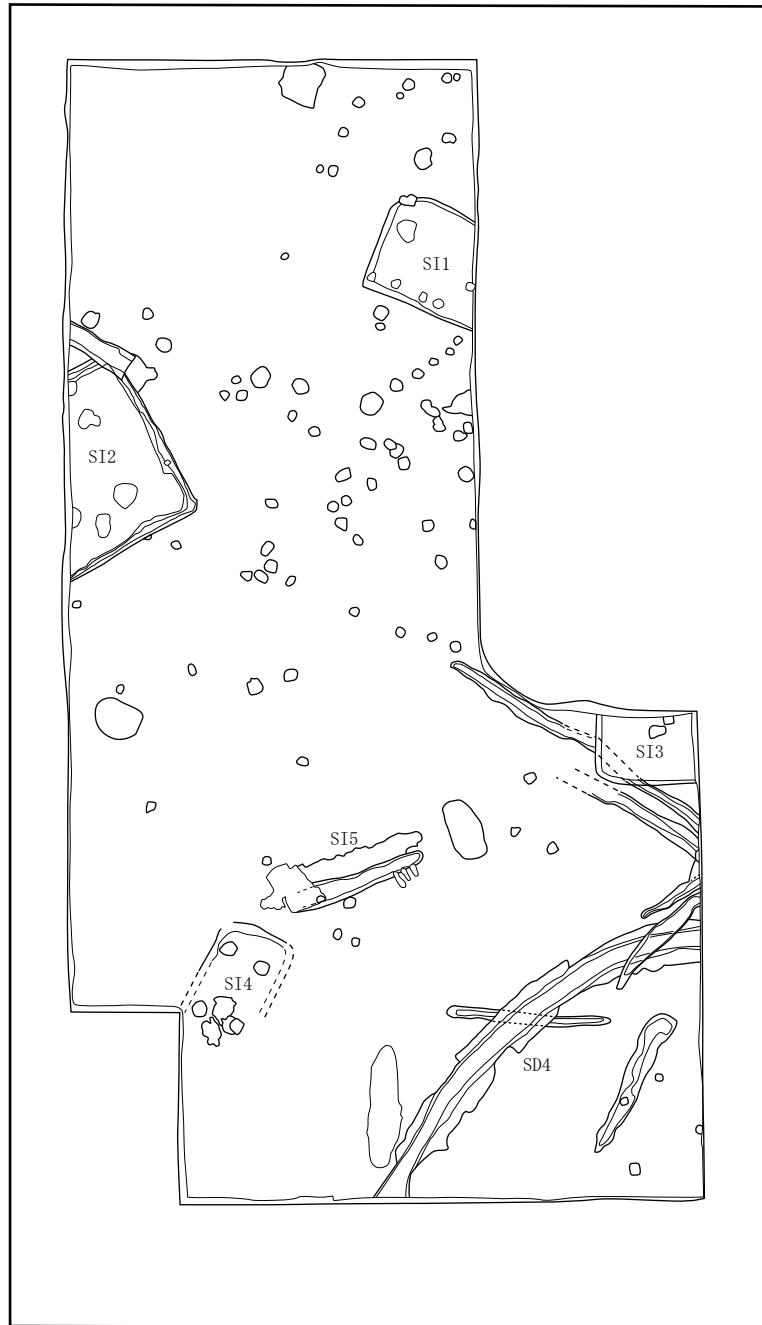
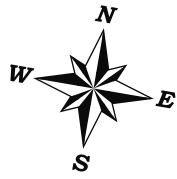
SD4 完掘（南西から）



SI2 遺物出土状況 1（北から）



SI2 遺物出土状況 2（北東から）



0 10m

S=1/200

弁天西遺跡第 21 次調査全体図

(6) 山王脇遺跡第 14 次調査

調査地番 川越市豊田町 3 丁目
17-1・2・3・4
調査期間 令和 5 年 2 月 24 日
～令和 5 年 3 月 10 日
調査面積 220㎡
調査原因 店舗建設
通知番号 教文資第 2-43 号
令和 5 年 2 月 13 日



遺跡概要

山王脇遺跡は武蔵野台地の北端、川越台の北西側崖線沿いの台地上に展開する古墳時代後期から古代にかけての集落遺跡である。遺跡範囲内の西側には、7 世紀第 3 四半期に築造された上円下方墳である国指定史跡山王塚古墳がある。

第 14 次調査は、山王塚古墳から北西約 200 m の地点で計画された開発行為に伴う店舗建設に関する調査である。古代の竪穴建物 3 軒を検出した。

1 号竪穴建物の平面形は長辺（東西）5.5 m、短辺（南北）3.4 m の矩形を呈する。建物北側にカマドを 1 基検出した。カマド周辺では土師器甕や坏などが完形で複数個体出土している。またカマドの西側に土坑が 1 基伴う。建物内からはほかに、紡錘車や土錘などが出土している。建物内に柱穴は確認できなかった。出土遺物から 7 世紀末頃の所産と考えられる。

2 号竪穴建物は南側の立ち上がりが調査区外であるため、全体像は不明であるが、平面形は一边が 4.9 m 程度の方角ないしは矩形を呈するものと考えられる。建物東側にカマドを 1 基検出した。柱穴を 2 基検出した。出土遺物から 8 世紀中頃の所産と考えられる。

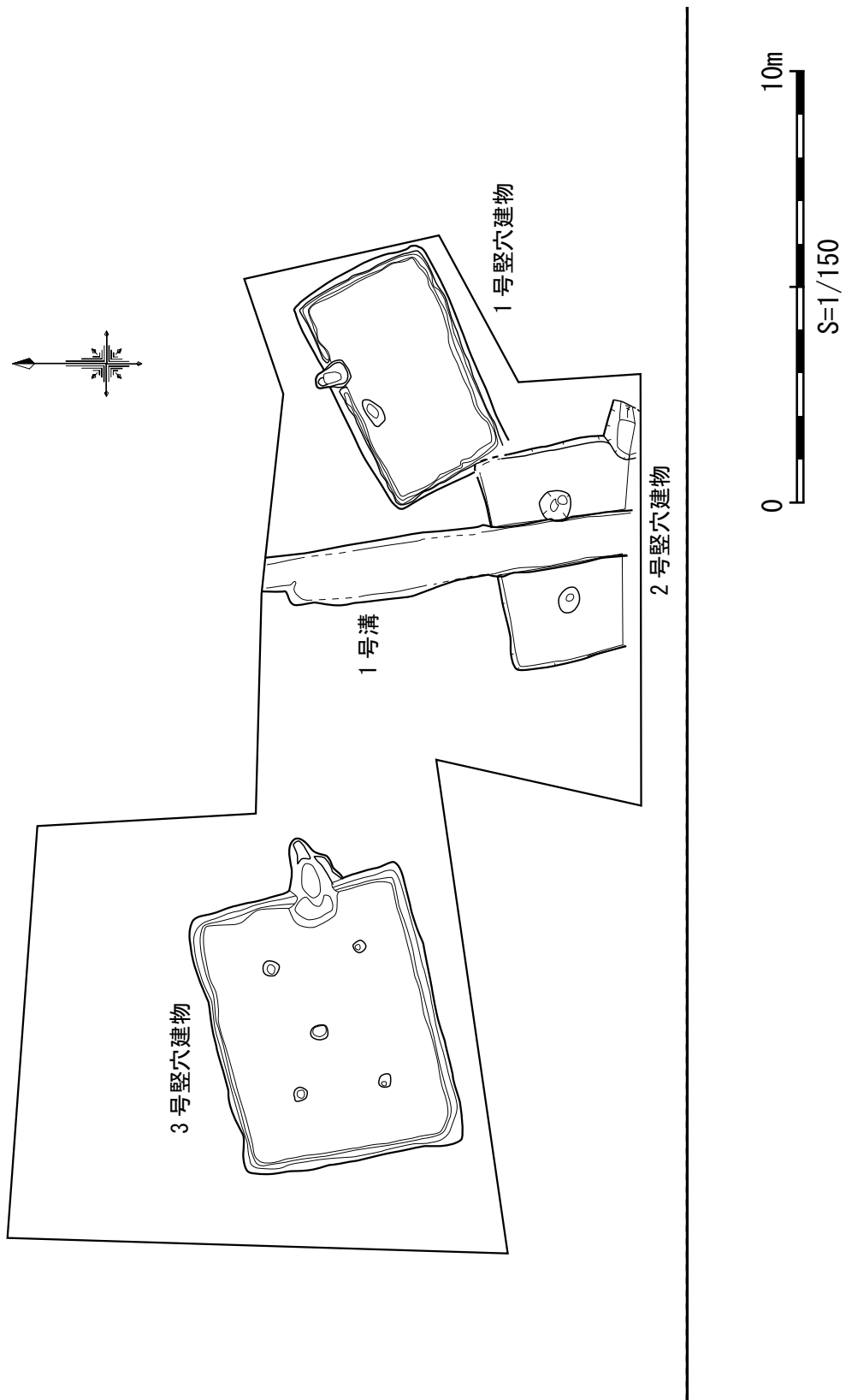
3 号竪穴建物の平面形は長辺（東西）6.5 m、短辺（南北）5.1 m の矩形を呈する。建物東側にカマドを 1 基検出した。柱穴を 5 基検出した。出土遺物から 2 号竪穴建物と同じく 8 世紀中頃の所産と考えられる。



1 号竪穴建物カマド遺物出土状況（南から）



1 号竪穴建物出土状況（東から）



山王脇遺跡第14次調査全体図

1 4 伝統的建造物群保存地区保存整備事業

蔵造りと時の鐘に代表される町並みは川越のシンボルゾーンであり、かけがえのない文化遺産である。蔵造り町家以外にも各時代を代表する多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

1 4 - 1 伝統的建造物群保存地区制度

「伝統的建造物群保存地区制度」とは、失われゆく歴史的な町並みを大切に後世に伝えていくための文化財制度で、昭和 50 年の文化財保護法の改正により創設されたものである。

「伝統的建造物群」とは、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いものをいい、またこれと一体をなして価値を形成している環境を保存するための地区を「伝統的建造物群保存地区」という。

伝統的建造物群保存地区で我が国にとって価値が特に高いものは、「重要伝統的建造物群保存地区」として文部科学大臣に選定される。



1 4 - 2 地区概要

1. 種 別 重要伝統的建造物群保存地区
2. 名 称 川越市川越伝統的建造物群保存地区
3. 所 在 地 幸町の全部、元町 1 丁目、元町 2 丁目及び仲町の各一部
4. 面 積 約 7.8ha
5. 条例制定年月日 平成 10 年 6 月 23 日（条例第 19 号）
6. 都市計画決定年月日 平成 11 年 4 月 9 日
7. 保存計画決定年月日 平成 11 年 4 月 9 日
8. 選 定 年 月 日 平成 11 年 12 月 1 日
(文部省告示第 197 号)
9. 選 定 理 由 重要伝統的建造物群保存地区選定基準「(1) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」による。



■川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

1 4 - 3 地区の特性

川越の伝統的な町並みは、間口が狭く奥行き長い敷地割のため、表は軒を連ねながらも奥には中庭を取り、採光や通風に対する工夫がみられるなど、商業地としての賑わいの演出と快適な住環境を両立させる知恵が活かされている。伝統的建造物群の基調をなす「蔵造り町家」は、明治26年の大火を契機として生まれたものである。まちの復興にあたり川越商人は、舟運により交流のあった江戸に多く建てられていた防火建築の土蔵造りを採用したと言われている。

町並みを構成する建造物としては、蔵造り町家群が最も特徴的であるが、真壁造り町家、大正昭和初期の洋風町家も分布する。また、町家以外の伝統的建造物には和風住宅、洋風住宅、並びに埼玉りそな銀行川越支店（旧第八十五銀行本店本館）等の近代洋風建築、寺社、時の鐘等の多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

1 4 - 4 令和4年度の主な事業の概要

(1) 保存事業

伝統的建造物の修理4件、応急修理3件、景観事業1件、合計8件の保存事業に補助金を交付した。

(2) 保存対策関連調査等

平岩・矢萩両家住宅主屋の損傷調査及び傾倒調査を行った。

(3) 保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に補助金200,000円を交付した。

1 4 - 5 現状変更行為件数

建築物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	2	1	0	0	1	15	6	0	1	26
工作物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
土地の形質の変更										0
木竹の伐採										1
土石の類の採取										0
その他（看板設置・修繕等）										18
合 計										45

(一つの申請で複数の行為内容を申請している場合があるため、許可件数としては36件。)

14-6 保存事業

(1) 保存事業補助金交付額

伝統的建造物の修理4件、応急修理3件、景観事業1件、合計8件の保存事業に、補助金合計18,460,000円を交付した。

(2) 保存事業の内容

事業種別	対象物件		事業内容
修 理	①	小林家住宅住居棟	外壁・軸組等の修理及び耐震補強。2箇年継続事業の2年目。
	②	山崎家住宅店蔵 [亀屋(茶)]	著しく損傷した外壁の修理。
	③	小谷野家住宅土蔵	瓦屋根の一部葺き直し及び屋根漆喰の修理。また、著しく損傷した外壁の修理。
	④	大畑家住宅主屋	傷んだ影盛り及び台座の修理。
応急修理	⑤	服部家住宅店蔵屋根	ずれた熨し瓦の応急修理。
	⑥	山崎家住宅大蔵屋根	鉄板屋根の錆落とし及び保護塗装。
	⑦	大畑家住宅主屋屋根	老朽化により損傷した屋根下り棟の積み直し、谷及び下屋熨し瓦の応急処置。
景 観	⑧	佐藤家	歴史的風致と調和した店舗の新築。

修理事業

①小林家住宅住居棟



修理前（損傷箇所）



修理後

②山崎家住宅店蔵〔亀屋（茶）〕



修理前（損傷箇所）



修理後

③小谷野家住宅土蔵



修理前（損傷箇所）

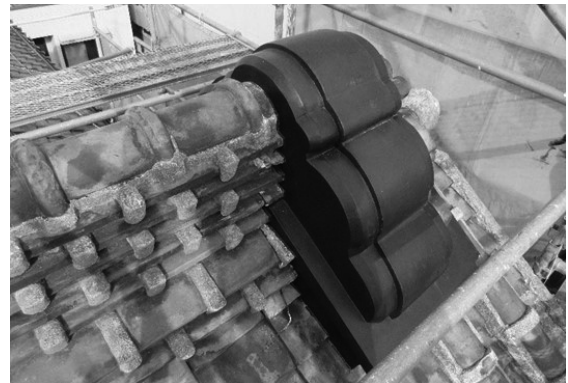


修理後

④大畑家住宅主屋



修理前（損傷箇所）



第1期工事完了後理後

1 4 - 7 保存活動事業

川越町並み委員会が行う伝建地区の保存活動事業に対して、120,000 円の補助金を交付した。

1 4 - 8 伝統的建造物の特定状況

令和4年度の追加特定はなし。

14-9 防火訓練支援

伝建地区とその周辺には、4箇年継続の特殊防災事業（平成14年度から平成17年度まで）により、防災設備（防災井戸1基、雨水利用防災井戸1基、簡易型屋外消火栓22基、埋設式簡易型屋外消火栓7基、防火水槽（40t：1基／60t：7基））が整備されている。

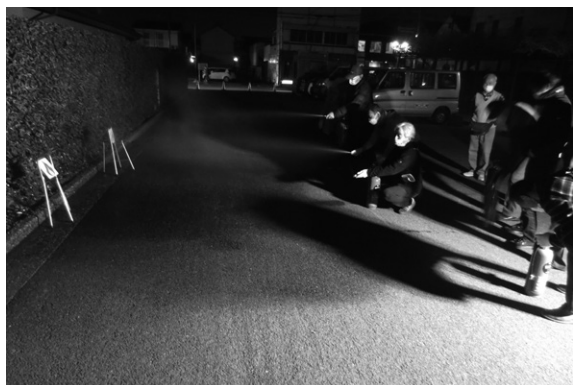
この防災設備を使用し、定期的に自治会等の主催による防災訓練を実施している。過去2年間は、新型コロナウイルスの影響により従来までと同様の内容での開催が難しく、規模の縮小などを余儀なくされていたが、令和4年度においては、コロナ禍を踏まえて開催日時や内容等を工夫したことで、大勢の参加があった。なお、第1回は雨天のため、屋内での訓練のみ行った。

第1回

1. 日時 令和4年7月15日（金）18～19時半頃
2. 会場 川越まつり会館視聴覚室
3. 主催 幸町自治会、元町1丁目町内会、元町2丁目自治会、仲町自治会、川越一番街商業協同組合、川越菓子屋横丁会、鐘つき堂商店会、元町一丁目商和会、川越町並み委員会
4. 参加者 29名
5. 内容 ①北消防署による講話
②都市景観課による簡易型屋外消火栓の操作説明

第2回

1. 日時 令和5年3月11日（土）18時～20時頃
2. 会場 川越まつり会館視聴覚室・駐車場
3. 主催 幸町自治会、元町1丁目町内会、元町2丁目自治会、仲町自治会、川越一番街商業協同組合、川越菓子屋横丁会、鐘つき堂商店会、元町一丁目商和会、川越町並み委員会
4. 参加者 40名（内訳 自治会、商店街等：30名、職員等：10名）
5. 内容 ①北消防署による講話、防災用DVDの上映
②消火器（水消火器）操
③簡易型屋外消火栓操作訓練



水消火器操作訓練



簡易型屋外消火栓の操作訓練

1 5 普及・啓発事業

1 5 - 1 職員の派遣

令和4年度は22件の依頼を受けて職員を派遣した。

	実施日	講義内容	講義場所	依頼元	対象	派遣職員
1	6月2日	鎌倉殿 VS 河越氏	大東市民センター	大東地区文化振興会	60名程	天ヶ嶋
2	7月20日	河越館跡について	霞ヶ関西公民館	霞ヶ関西公民館	30名	井口
3	7月20日	川越の歴史 (総合的な学習の時間)	市立初雁中学校	市立初雁中学校	6名	井口
4	7月20日	川越の歴史 (総合的な学習の時間)	市立初雁中学校	市立初雁中学校	6名	田中
5	8月3日	笠幡の神社について	霞ヶ関西公民館	霞ヶ関西公民館	30名	宮原
6	8月6日	市制施行100周年の川越まつり	川口市 Skip City	Skip City	100名	田中
7	8月19日	川越城・榎本弥左衛門	リモート	FMしろいし	—	宮原
8	8月23日	「SDG's パソコンゲームを作ろう！」	中央公民館	中央公民館	8名	石田
9	9月8日	河越館跡について	市立上戸小学校	市立上戸小学校	30名	天ヶ嶋
10	10月14日	町並み・原田家住宅見学	伝建地区他	大空学園	15名	天ヶ嶋
11	10月20日	総合的な学習の時間「川越まつりにチャレンジ」	市立川越小学校	市立川越小学校	96名	石田
12	10月23日	群馬史料講座	群馬県立文書館	群馬県立文書館	35名	宮原
13	10月26日	山王塚古墳と古代の川越	芳野公民館	芳野公民館	18名	藤田
14	11月9日	江戸時代の川越	志木市いろは遊学館	志木市いろは遊学館	30名	井口
15	11月30日	鎌倉殿の13人	古谷公民館	古谷公民館	40名	井口
16	11月30日	町並みと建物	志木市いろは遊学館	志木市いろは遊学館	30名	宮原
17	12月1日	藤原町遺跡	高階公民館	高階公民館	32名	高木
18	12月8日	小江戸の織物・川越唐棧	中央公民館	ふるさと塾	35名	石田
19	12月14日	川鶴の歴史	川鶴公民館	川鶴公民館	30名	轟
20	1月12日	川越祭り	高階公民館	高階公民館	13名	田中
21	1月22日	山王塚古墳と古代道路	大東市民センター	大東地区文化振興会	62名	藤田
22	3月26日	太田道灌	プリンスホール	生命保険修士会	80名	天ヶ嶋

15-2 刊行物

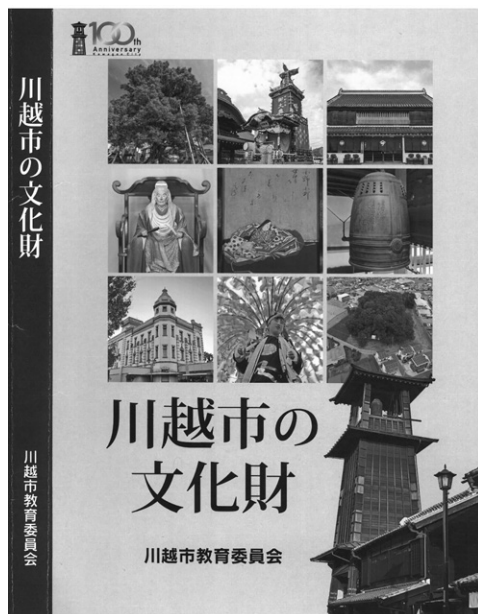
パンフレット及び書籍を発行し、文化財の保護普及の一助としている。

パンフレット

川越建物細見	川越城中ノ門堀跡
川越市指定文化財 時の鐘	市指定文化財 永島家住宅（旧武家屋敷）
国指定史跡 河越館跡	川越の祭りと芸能
国指定史跡河越館跡史跡公園	ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財
市指定文化財 旧山崎家別邸	川越氷川祭の山車行事（日本語及び9か国語版）

書籍・地図（有償頒布）

川越市の文化財	川越氷川祭りの山車行事報告書
ハンドブック川越の歴史	川越の民俗調査報告書第一集 福原・南古谷地区の民俗
川越の伝説	川越の民俗調査報告書第二集 山田地区の民俗
続・川越の伝説	川越の神社建築
川越の人物誌 第1集	川越の寺院建築
川越の人物誌 第2集	川越市指定文化財 旧山崎家別邸調査報告書
川越の人物誌 第3集【女性編】	元町二丁目井上家文書目録
川越市文化財散策マップ	川越市山田地区民具調査報告書 鹿倉家の民具
	時の鐘耐震化工事報告書



「川越市の文化財」第7版 令和5年3月31日発行

15-3 防火訓練

1. 実施日時 令和5年1月25日(水)13時30分～14時
2. 会場 喜多院・東照宮・日枝神社
3. 主催 川越市教育委員会・川越地区消防組合
喜多院・東照宮・日枝神社
川越市文化財保護協会
4. 内容 通報、消火、重要物件搬出、避難などの総合訓練
貯水槽、消火器などの点検・整備及び試験運用
5. 動員数 参加人員94名
出動車両6台(梯子車1台、化学車1台ほか)
見学者数 約100名

6. 概要

昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が火災によって焼損したことから、昭和30年に1月26日が「文化財防火デー」と定められ、消防庁と共同で貴重な文化財を火災から守るための取り組みを行っている。

本市では、昭和34年に喜多院客殿・書院に防災設備が設置されたのを契機に文化財防火訓練が開始され、毎年同時期に開催している。喜多院周辺は、重要文化財建造物3件13棟を始め、川越市内でも最も多くの文化財が集中している地域である。また、各文化財の防火設備等も整備されており、防火訓練を行なうには最適といえる。

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、滞留時間の短縮の観点から、閉会式での挨拶は消防団長のみ行い、梯子車の出動は1台のみとした。



消防車の給水(喜多院)



はしご車による放水(喜多院)



東照宮



日枝神社

15-4 市制施行100周年記念事業「指定文化財修理記念展示」

1. 実施日時 令和4年11月12日(土)から同年12月18日(日)「34日間」
※休館日 11/21(月)、28(月)、12/5(月)、12(月)
11月14日(月)は、埼玉県民の日のため開館
2. 会場 川越市立美術館 常設展示室(地下1F)の一部
3. 対象 一般
4. 参加人数 総数 4,731人
(1日平均139人) 最高829人(11/14) 最低14人(12/6)

5. 概要

木造天海僧正坐像(県指定文化財)と堀河夜討図(市指定文化財)の指定文化財の修理事業が完了し、修理の時に新たな事実が発見された。材料や工法など伝統的な修理工法に従い修理した過程を展示することにより、その大切さを理解してもらい、指定文化財を次世代に遺す気運が高まる契機となることを目的とした。



展示風景

15-5 市制施行100周年記念事業 「土器にさわって学ぼう高階の縄文時代」

1. 実施日時 令和4年12月1日(木)
【第1部：1～3年生】14:00～14:45
【第2部：4～6年生】15:00～15:45
2. 会場 高階公民館 講座室2号
3. 対象 高階小学校及び高階南小学校に在籍する児童(事前申し込み)
4. 参加人数 22名(内保護者10名)
5. 概要

令和3～4年度に実施した藤原町遺跡第3次調査の成果を地元の小学生に解説した。

参加者は出土した縄文土器片を手に取り、スケッチすることで土器の分厚さや質感、文様を細かく観察した。また、完形に近い縄文土器を展示し、観察を促し、当時どのように使用されていたか考え、意見交換を行った。



講座風景



土器を選ぶ子供たち

15-6 山王塚古墳ミニ見学会

1. 日 時 令和4年12月17日(土)、18日(日)
両日共に10時～11時・13時～14時
2. 会 場 市指定史跡山王塚古墳 川越市大塚1-21 他
3. 対 象 一般
4. 参加人数 124名(17日:43名、18日:午後81名)
5. 概 要

令和4年12月16日に国の文化審議会から文部科学大臣へ、山王塚古墳を国史跡に指定するように答申が出たことを受け、急遽、現地で史跡のミニ見学会を開催した。

ミニ見学会では職員が、まず答申が出されるに至った経緯を説明した後に、文化審議会が評価した歴史的学術的な価値、山王塚古墳の見どころについて現地を巡りながら解説した。また、調査時の写真パネル展示や石室の形をロープで現地に示したほか、出土した石室石材を展示し遠方の石材産地について説明するなど、わかりやすい解説に努めた。



見学会風景



石室内部の解説風景

16 川越市の文化財数

令和4年度は、市指定文化財史跡山王塚古墳が、令和5年3月20日付で国指定史跡に指定された。

令和5年3月31日現在

国指定等文化財		県指定文化財		市指定文化財		合計			
種別	件数	種別	件数	種別	件数				
重要文化財	建造物	5	有形文化財	建造物	9	有形文化財	建造物	51	65
	絵画	2		絵画	2		絵画	1	5
				彫刻	2		彫刻	12	14
	工芸品	3		工芸品	5		工芸品	18	26
	書跡・典籍・古文書	1		書跡・典籍・古文書	7		書跡・典籍・古文書	28	36
				考古資料	1		考古資料	6	7
		歴史資料	1	歴史資料	6	7			
民俗文化財			民俗文化財	有形民俗文化財	1	民俗文化財	有形民俗文化財	20	21
	重要無形民俗文化財	1		無形民俗文化財	6		無形民俗文化財	12	19
記念物	史跡	2	記念物	史跡	3	記念物	史跡	31	36
				天然記念物	1		天然記念物	8	9
				旧跡	4				4
国指定文化財計		14	県合計		42	市合計		193	249
重要伝統的建造物群保存	1								
重要美術品	2								
登録有形文化財	12								
登録記念物	1								
国合計	30								
合計		265		件					

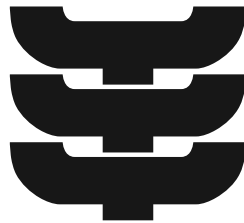
川越市文化財保護年報

令和4年度

令和5年12月25日

発行 川越市教育委員会文化財保護課
〒350-8601
川越市元町1丁目3番地1
TEL 049-224-6097 (直通)

印刷 株式会社広真



文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗 拱(ときょう=組みもの) のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。